
深 谷 市

皿沼西／戸森前

社会資本整備総合交付金（河川）工事関係
埋蔵文化財発掘調査（整理）事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告
（第2分冊）

2 0 1 2

埼 玉 県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目 次

巻頭図版

例言

凡例

目次

(第1分冊)

I 発掘調査の概要	1
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2
3. 発掘調査・報告書作成の組織	4
II 遺跡の立地と環境	6
1. 地理的環境	6
2. 歴史的環境	8
III 皿沼西遺跡(2次～5次)の調査	15
1. 遺跡の概要	15
2. 縄文時代の遺構と遺物	17
3. 弥生時代の遺構と遺物	28
4. 古墳時代の遺構と遺物	29
(1) 竪穴住居跡	29
(2) 土城	68
(3) 遺構外の出土遺物	76
5. 古代の遺構と遺物	80
(1) 竪穴住居跡	80
(2) 掘立柱建物跡	174
(第2分冊)	
(3) 土城	245
(4) 井戸跡	268
(5) 溝跡	280
(6) 焼成遺構	348
(7) 土器片集積遺構	349
(8) 小穴	349
(9) 遺構外の出土遺物	352
6. 近世の遺構と遺物	359
(1) 井戸跡	359

(2) 溝跡	360
(3) 遺構外の出土遺物	370
IV 戸森前遺跡(3次・4次)の調査	371
1. 遺跡の概要	371
2. 縄文時代の遺構と遺物	372
3. 古墳時代の遺構と遺物	373
(1) 竪穴住居跡	373
(2) 土城	380
(3) 河川跡	381
4. 古代の遺構と遺物	392
(1) 溝跡	392
(2) 水田跡	398
(3) 河川跡	400
5. 近世の遺構と遺物	400
V 科学分析	401
VI 調査のまとめ	415
1. 成果と課題	415
2. 土器と遺跡の変遷	416
(1) 古墳時代の土器	416
(2) 古代の土器	416
(3) 古代の集落の変遷	422
3. 地震で倒壊した古代の倉	425
4. 弘仁の大地震と地域社会	428
引用・参考文献	439

写真図版

抄録

(3) 土壌

古代の土壌は、皿沼西遺跡の低地（大堀川の旧河川跡）を除いた自然堤防上に広く分布する。土壌は、大型円形土壌1基、T字形土壌10基、土壌94基、火葬墓1基の106基を検出した。ここでは、大型円形土壌、T字形土壌、火葬墓、および出土遺物の多い土壌について詳述する。

1 大型円形土壌

3次第12号土壌（第199～202図）

J-14グリッドに位置する。調査区の南側西よりに検出した。自然堤防の縁辺、低地との境に作られた。自然堤防の縁辺をめぐる溝が、円形の大型土壌（3次第12号土壌）の南側を迂回する。また、同土壌の北側の溝は、集落から円形土壌を断ち切るように開削することから、これらの溝と大型円形土壌は、一連の遺構と考えられる。なお、近世の溝である3次第4号溝跡が、大型円形土壌を南北に横切る。

大型円形土壌の断面は、すり鉢形である。底面の中央に小穴を検出した。この小穴は、大型円形土壌の埋没途中で掘り直された穴である。埋土中に炭化物層や焼土層、土器の堆積層などは認められなかった。規模は、長軸3.40m、短軸3.16m、深さ0.82mである。長軸方位は、N-85°-Eである。

なお、底面が、砂層まで掘り込まれないこと、壁面に湧水の^{あふ}け込みがなかったことから、井戸跡とは考えられない。

大型円形土壌の南には、浅い^{せんい}前庭状の掘り込み（前庭部）が作られている。そこから多量の土器が出土した。前庭部は、幅6.90m、奥行き3.66m、高さ0.37mである。西側が広く、底面は平らである。底面に貼床や排水溝などは、確認できない。ただし、前庭部の中央やや南に柱穴状の小穴を検出した。

大型円形土壌にかかわる溝は、①南を迂回する溝、②北側を接する溝、③南側に並行する溝の三種類がみられる。遺構の検出面は、灰黄褐色土の

上面であった。平面図上は途切れたようにみえるが、すべて灰黄褐色土の上層、黒色土に掘り込んだ連続する溝と考えられる。

よって、①は3条の溝、②は1条、③は2条の同じ場所に掘削されたことになる。溝が、まず、①は、西から東に向かう溝（a）、3次第52号溝跡が、前庭部の南辺を通り、3次第74号溝跡となる溝、（b）、3次第53号溝跡が、前庭部の前で途切れ、3次第75号溝跡となる溝、（c）、3次第53号溝跡が、やはり前庭部の前で途切れ、3次第78号溝跡となる。三者は、（古）a→b→c（新）の順に重複していた。

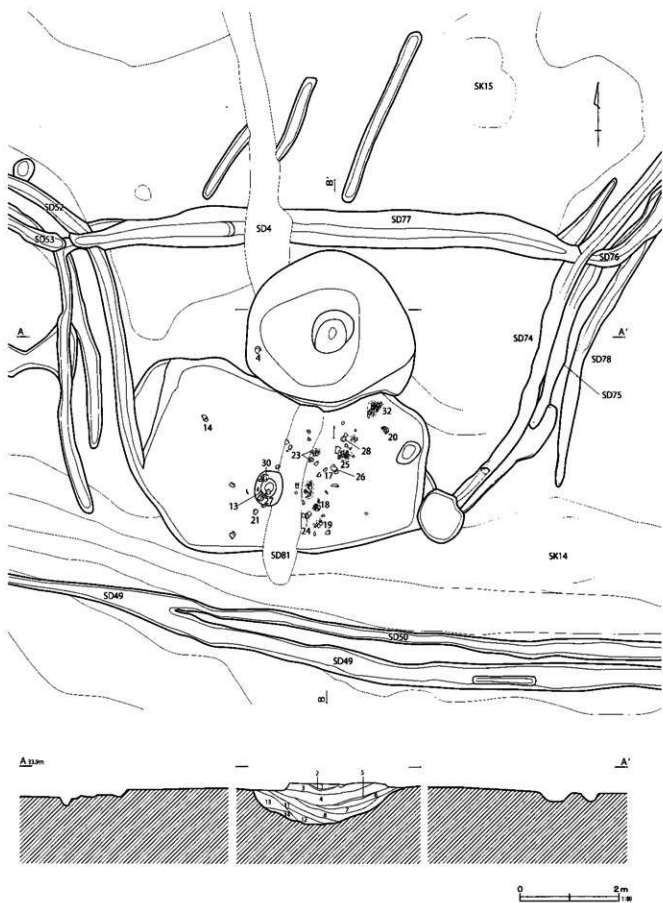
②は、細い3次第53号溝跡から幅広く深い3次第77号溝跡となり、再び細い3次第76号溝跡となる。3次第77号溝跡の底面には、小穴や柱穴は検出できなかった。柵木列や橋脚などはなかったと考えたい。しかし、溝の底面に段違いの場所がみられる。①の3条の溝より新しい。

③は、第49号溝跡と第50号溝跡が重複する。自然堤防の縁辺を東西に走行する溝で、第49号溝跡より第50号溝跡が新しい。①、②との重複関係は明らかにできなかった。

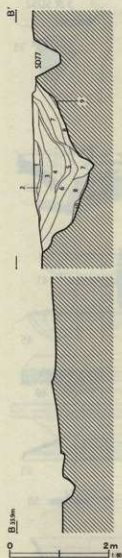
出土遺物を第200～202図に掲載した。1～10は、大型円形土壌の覆土から出土した遺物である。11～32は、同土壌の全面に広がる竪穴状遺構から出土した遺物、33～37は、同土壌を迂回する溝から出土した遺物、38～91は、同土壌の周囲や上層を覆う堆積層中から出土した遺物である。

1～5は、土師器の坏である。1・2は、平底で碗形の坏である。3・4は、土師器の暗文土器である。3は、外面に細かな横方向のヘラミガキを施し、内面には三条の螺旋状暗文を施す。4は、外面の口縁部付近まで削り込まれる。5は、大振りの鉢形の坏である。内面底部から口縁部にかけて螺旋状の暗文が施される。

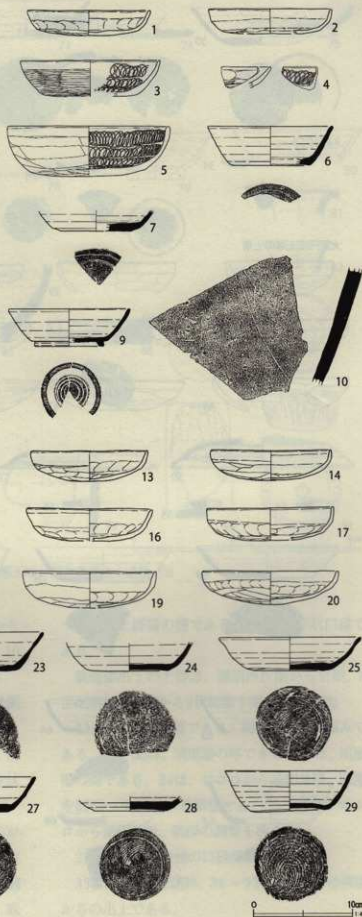
6～8は、須恵器の坏である。6・7は、ロクロから糸切り後、底部周辺に回転ヘラケズリを行う。8は、ロクロから糸切り後、底部の調整を施さな



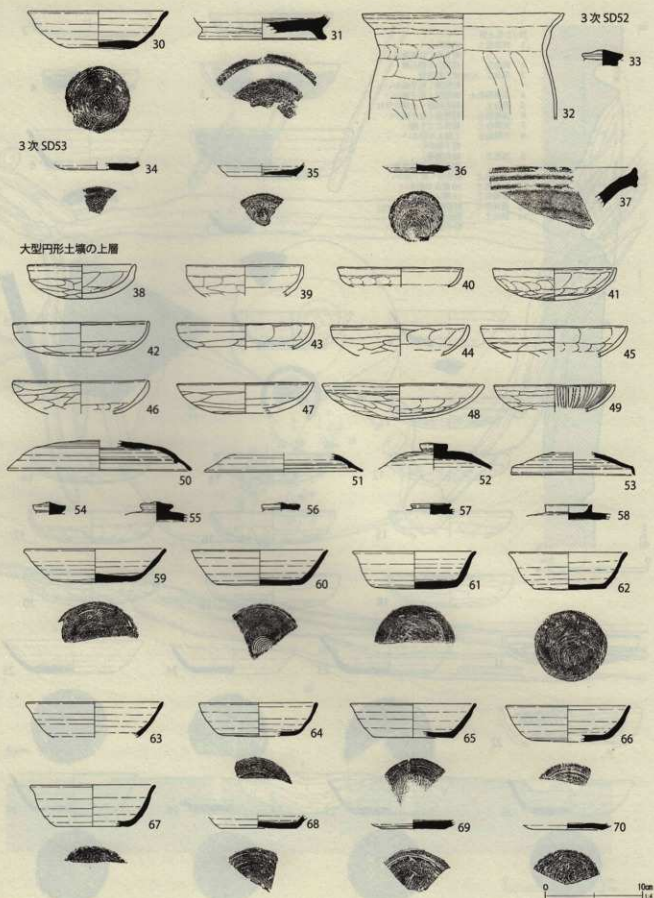
第199図 大型円形土壇と関連遺構 (1)



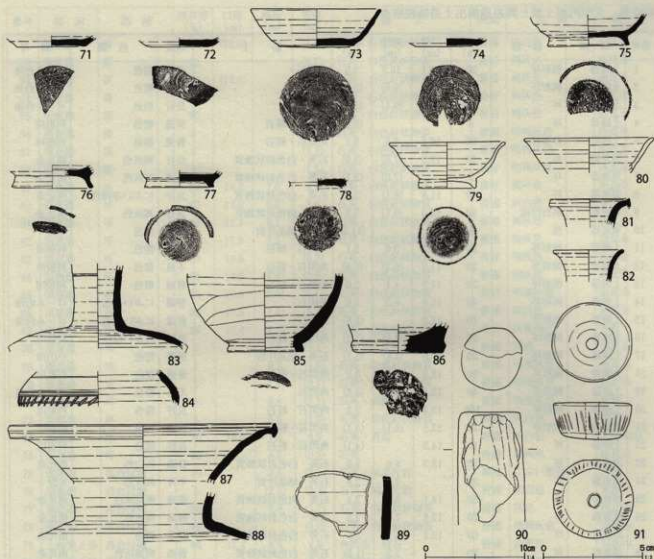
- 第12号土層
 1 淡茶色土 砂質粘土 粒子粗く粘性強い
 2 灰色土 浅間山B軽石層 炭化物含む
 3 黒色土 粘性強く粒子細かい
 4 淡茶褐色土 炭化物層 土器片含む
 5 黒色土 粘性強く粒子細かい
 6 灰褐色土 粘性とても強い
 7 灰褐色土 7層より明るい
 8 黒色土 炭化物層 粒子細かく粘性強い
 9 灰褐色土 粘性強く粒子細かい
 10 灰褐色土 10層より明るい
 11 灰褐色土 粘性強く粒子細かい
 12 黄褐色土 炭化物層 粘性強く粒子細かい
 13 黒色土 粘性強く粒子細かい
 14 黒色土 粘性強く粒子細かい



第200図 大型円形土壇と関連遺構 (2)・出土遺物 (1)



第201図 大型円形土壇と関連遺構出土遺物 (2)



第202図 大型円形土壺と関連遺構出土遺物 (3)

い。9は、須恵器の高台付椀である。ロクロから糸切り後、底部を回転ヘラケズリで調整する。10は、須恵器の甕の破片である。

大型円形土壺から出土した土器は、皿沼西V期、8世紀第IV四半期である。

11～22は、土師器の坏である。11～21は、椀形の扁平な坏である。22は、内面に二条の螺旋状文、外面に粗いヘラケズリが施される。

23～30は、須恵器の坏である。23～28は、ロクロから糸切り後、底部を回転ヘラケズリで調整する。29・30は、ロクロから糸切り後、底部の調整を施さない。31は、須恵器の長頸壺である。底部に回転ヘラケズリが施される。

32は、土師器の甕である。「コ」の字状口縁である。

前庭部出土の土器は、皿沼西IV期からVI期、8世紀第III四半期から9世紀第I四半期に及ぶ。

33は、須恵器の蓋である。扁平な宝珠状摘みである。34・35は、須恵器の坏である。36は、須恵器の皿である。34は、ロクロから糸切り後、底部を回転ヘラケズリで調整する。35・36は、ロクロから糸切り後、底部の調整を施さない。

37は、須恵器の甕の口縁部破片である。

33は3次第52号溝跡、34～37は3次第53号溝跡からの出土である。

38～49は、土師器の坏である。38は、半球形

第97表 大型円形土坑と関連遺構出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	碗形環	20	12.1	10.2	2.5	角閃石	普通	褐色	ローム台地
2	土師器	碗形環	10	12.2	(6.0)	(2.5)	角閃石	普通	褐色	ローム台地
3	土師器	環	10	13.8	(9.1)	(3.6)	角閃石	良好	褐色	ローム台地
4	土師器	環	5			(2.1)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
5	土師器	鉢形環	90	16.1	5.5	5.1	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
6	須恵器	環	10	12.3	(7.5)	(3.9)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
7	須恵器	環	5		(7.0)	(2.1)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
8	須恵器	環	10	11.8	(6.1)	(3.6)	石英・白色針状物質	良好	にぶい、赤褐色	南比企
9	須恵器	高台付碗	20	12.0	(6.7)	3.8	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
10	須恵器	釜	5			(11.8)	石英・結晶片岩	良好	灰色	未野
11	土師器	碗形環	20	11.8	3.6	3.1	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
12	土師器	碗形環	10	11.8	(6.3)	(2.6)	角閃石・軽石	不良	褐色	利根川
13	土師器	碗形環	20	11.5	4.1	3.0	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
14	土師器	碗形環	40	11.9	6.3	3.0	角閃石	普通	にぶい、褐色	ローム台地
15	土師器	碗形環	10	12.2		(2.8)	角閃石	普通	にぶい、褐色	ローム台地
16	土師器	碗形環	20	12.5	(4.1)	(3.2)	角閃石・軽石	良好	にぶい、褐色	利根川
17	土師器	碗形環	20	12.6	(4.8)	(3.3)	石英・結晶片岩	普通	褐色	小山川
18	土師器	碗形環	90	12.2	7.5	3.2	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
19	土師器	碗形環	40	13.1	(3.8)	(3.6)	角閃石	不良	褐色	ローム台地
20	土師器	碗形環	100	13.4	3.1	3.3	角閃石・軽石	良好	褐色	利根川
21	土師器	碗形環	20	13.5	(5.1)	(3.1)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
22	土師器	環	10	14.3	(4.1)	(4.1)	角閃石・軽石	良好	褐色	利根川
23	須恵器	環	50	13.3	6.6	4.0	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
24	須恵器	環	20		7.5	2.8	石英・結晶片岩	不良	褐灰色	未野
25	須恵器	環	50	14.1	6.8	3.4	石英・白色針状物質	普通	明褐色	南比企
26	須恵器	環	70	12.4	7.0	3.5	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
27	須恵器	環	60	12.2	6.7	3.6	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企
28	須恵器	環	20		7.3	(1.5)	石英・白色針状物質	普通	明褐色	南比企
29	須恵器	環	70	12.7	6.9	4.0	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
30	須恵器	環	90	14.0	6.2	3.4	石英・結晶片岩	不良	明赤褐色	未野
31	須恵器	長頸瓶	5		(12.6)	(2.5)	石英・白色針状物質	普通	明褐色	南比企
32	土師器	甕	5	20.4		(10.8)	角閃石・軽石	普通	明赤褐色	利根川
33	須恵器	甕	5			(1.7)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
34	須恵器	環	5		(5.3)	(1.0)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
35	須恵器	環	5		7.0	(1.4)	石英・結晶片岩	普通	灰白色	未野
36	須恵器	皿	20		5.2	(0.8)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
37	須恵器	釜	5			(4.1)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
38	土師器	半球形環	20	10.9	3.0	3.5	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
39	土師器	碗形環	5	11.8		(3.3)	角閃石・軽石・安山岩	普通	にぶい、褐色	利根川
40	土師器	碗形環	5	12.6		(2.0)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
41	土師器	碗形環	30	12.4	6.8	3.3	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
42	土師器	碗形環	20	13.7	(4.9)	(3.5)	角閃石・軽石	普通	にぶい、褐色	利根川
43	土師器	碗形環	20	13.7		(2.7)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
44	土師器	皿形環	5	13.8		(3.1)	角閃石・軽石・安山岩	普通	褐色	利根川
45	土師器	皿形環	10	14.8		(3.2)	角閃石・軽石・安山岩	普通	褐色	利根川
46	土師器	皿形環	10	13.6		(3.4)	角閃石・軽石・安山岩	普通	褐色	利根川
47	土師器	皿形環	20	13.8	(6.2)	(3.1)	角閃石・軽石・安山岩	普通	褐色	利根川
48	土師器	皿形環	60	16.2	9.2	3.6	角閃石・軽石・安山岩	普通	浅黄褐色	利根川
49	土師器	環	5	12.2		(2.8)	角閃石・軽石・安山岩	普通	褐色	利根川
50	須恵器	蓋	40	(18.5)		(3.1)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企

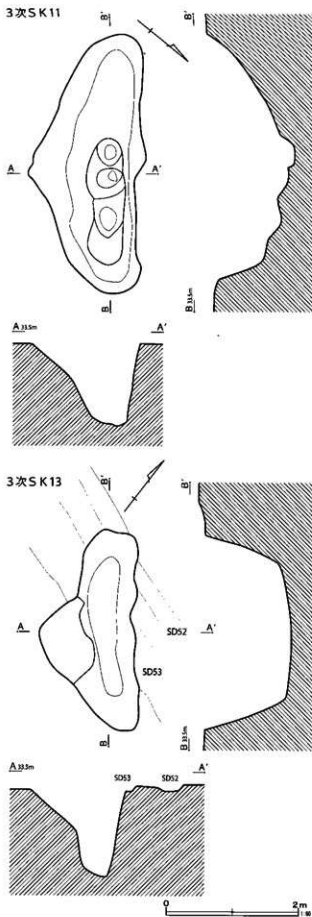
番号	種別	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	備考
51	須恵器	蓋	5	(16.0)		(1.8)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
52	須恵器	蓋	40			(2.7)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
53	須恵器	蓋	20	(12.5)		(2.3)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
54	須恵器	蓋	5			(1.3)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
55	須恵器	蓋	10			(2.0)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
56	須恵器	蓋	5			(0.8)	石英・白色針状物質	普通	明褐灰色	南比企
57	須恵器	蓋	5			(1.1)	石英・白色針状物質	普通	明褐灰色	南比企
58	須恵器	蓋	5			(1.5)	石英・白色針状物質	良好	明褐灰色	南比企
59	須恵器	坏	20	14.2	7.0	3.5	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
60	須恵器	坏	20	13.8	8.8	3.6	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
61	須恵器	坏	40	12.4	8.1	3.9	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
62	須恵器	坏	90	11.8	7.3	3.9	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
63	須恵器	坏	20	13.8		(3.7)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
64	須恵器	坏	20	11.9	(7.2)	(3.5)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
65	須恵器	坏	20	12.6	(8.0)	(3.5)	石英・白色針状物質	良好	明褐灰色	南比企
66	須恵器	坏	20	12.5	(7.2)	(3.7)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
67	須恵器	坏	20	12.6	(7.3)	(4.3)	石英・結晶片岩	不良	灰黄褐色	末野
68	須恵器	坏	5			7.8	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
69	須恵器	坏	5			6.2	石英・白色針状物質	普通	明褐灰色	南比企
70	須恵器	坏	5			7.1	石英・白色針状物質	普通	明褐灰色	南比企
71	須恵器	坏	5			6.8	石英・結晶片岩	普通	明褐灰色	末野
72	須恵器	坏	5			5.5	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
73	須恵器	坏	30	12.9	7.4	3.9	石英・頁岩	普通	灰白色	太田金山
74	須恵器	坏	20			6.2	石英	普通	褐灰色	南比企
75	須恵器	高台付椀	10			7.6	石英・結晶片岩	普通	にぶい褐色	末野
76	須恵器	高台付椀	5			(7.5)	石英・結晶片岩	普通	灰白色	末野
77	須恵器	高台付椀	20			6.9	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
78	須恵器	高台付椀	10			(1.0)	石英・白色針状物質	普通	明褐灰色	南比企
79	土師質土器	高台付椀	60	11.4	5.5	4.6	角閃石・軽石	普通	淡黄色	利根川
80	土師質土器	高台付椀	20	12.8		(3.6)	角閃石・軽石	普通	淡黄褐色	利根川
81	灰輪陶器	長頸瓶	5			7.8	石英	普通	灰白色	鎌投
82	須恵器	長頸瓶	5			6.8	石英	良好	明褐灰色	東金子か
83	須恵器	長頸瓶	5			(8.5)	石英・白色針状物質	良好	暗灰色	南比企
84	須恵器	長頸瓶	5			(3.6)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
85	灰輪陶器	長頸瓶	5			(7.4)	石英	普通	灰白色	鎌投
86	須恵器	すり鉢	5			(8.5)	石英・白色針状物質	不良	明褐灰色	南比企
87	須恵器	壺	5	26.6		(5.9)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
88	須恵器	壺	5			(4.9)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
89	須恵器	壺	5			(6.5)	石英・結晶片岩	普通	明褐灰色	末野
90	土製品	文罽	40	全長(10.8)	幅(5.8)		角閃石・軽石		灰白色	利根川
91	石製品	紡錘車	100	直径4.0	厚さ1.9	重さ49.5g	滑石		黒色	

の坏である。口縁部で小さく外反する。39～43は、碗形の坏である。44～48は、皿形の坏である。49は、内面に粗い放射状の暗文を施す。

50～58は、須恵器の蓋である。50・51は、口縁部の見込み深くに小さなカエリがつく。53は、鶴頸状の口唇部となる。52・54～57は、扁平な

ボタン状の摘みである。58は、高いリング状の摘みがつく。

59～74は、須恵器の坏である。59～62、64～66、68・69・72は、ロクロから糸切り後、底部を回転ヘラケズリで調整する。67・70・71・73・74は、ロクロから糸切り後、底部の調整を施さな



第203図 T字形土坑 (1)

い。

73は、太田市金山丘陵周辺の製品かもしれない。

75～78は、須恵器の高台付椀である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に高台をめぐらす。

79・80は、土師質土器の高台付椀である。79は、ロクロから糸切り後、高台をめぐらす。

82～84は、須恵器の長頸瓶である。84の胴部には、木口状工具を押し当てた文様がめぐる。

81・85は、須恵器の長頸瓶である。81は、自然釉がかかる。両者とも猿投窯の井ヶ谷78号窯式 (I G78) である。

86は、須恵器のすり鉢である。底部は粗いヘラケズリが残る。

87・88は、須恵器の壺である。89は、摩耗痕跡の残る土器片である。甕の破片を用いて砥石として用いたと考えられる。

90は、土製の支脚である。

91は、滑石の紡錘車である。側面に放射状の刻み目が残る。

埋土中の遺物は、8世紀前葉から10世紀前葉に及ぶ。

ii T字形土坑

平面形が、「T」字形となる大型の土坑を「T字形土坑」とする。T字形土坑は、細長く深い楕円形の土坑を主体とし、その長辺中央に傾斜面が取り付く。傾斜面が入口、または斜路と考えられる。底面には、小穴が無秩序に穿たれる。以上を特徴とする土坑を一括した。

3次第11号土坑 (第203図)

K-14グリッドに位置する。調査区の南辺中央に検出した。3次第82号溝跡と重複するが、前後関係は不明である。規模は、長軸3.93m、短軸1.24m、入口の長さ1.76m、深さ1.32mである。長軸方位は、N-52°-Eである。底面に小穴が三箇所見られた。北壁は、垂直に近く立ち上がる。底面に段があり傾斜路となる。

3次第13号土壌 (第203図)

I-14グリッドに位置する。調査区の南辺西よりに検出した。3次第52・53号溝跡と重複し、溝跡より新しい。規模は、長軸3.04m、短軸0.90m、入口の長さ1.44m、深さ1.30mである。長軸方位は、N-43°-Eである。底面に小穴はない。南壁は、垂直に近く立ち上がる。底面に段があり緩い傾斜路が続く。

3次第14号土壌 (第205図)

K-15グリッドに位置する。調査区の南辺中央に検出した。遺構の重複はない。規模は、長軸1.61m、短軸1.18m、深さ0.70mである。長軸方位は、N-50°-Eである。西側に段が伸び、そこから南側に緩く傾斜する。その段の底面には、第205図1の須恵器大甕の胴部破片が、重なって出土した。底部付近の破片である。

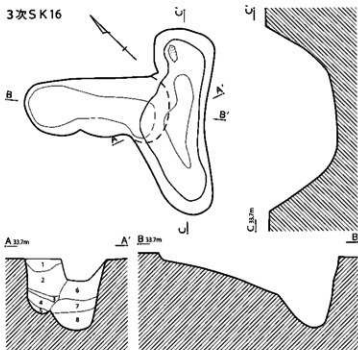
3次第16号土壌 (第204図)

J-13グリッドに位置する。調査区の南辺西よりに検出した。遺構の重複はない。規模は、長軸2.77m、短軸0.92m、入口の長さ2.75m、深さ1.15mである。長軸方位は、N-45°-Eである。底面に小穴はない。北壁は、垂直に近く立ち上がる。底面から段をもって緩い傾斜路が長く続く。傾斜路は、土壌の主体が埋没した後、掘り返したか後補したと考えられる。

4次第74号土壌 (第204図)

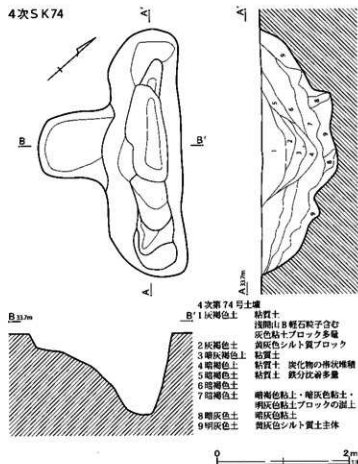
N-8グリッドに位置する。調査区の南辺西よりに検出した。重複する遺構はない。規模は、長軸3.74m、短軸1.13m、入口の長さ2.16m、深さ1.24mである。長軸方位は、N-52°-Eである。底面に小穴はないが、凸凹があり一定しない。北壁は、垂直に近く立ち上がる。底面から低い段をもって緩い傾斜路が続く。傾斜路は、土壌が

3次SK16



- | | | | |
|----------|------------|---------|----------|
| 3次第16号土壌 | 灰色粘土ブロック少量 | 5 灰褐色土 | 砂質土 |
| 1 暗灰褐色土 | 粘り強く粒子やや粗い | 6 暗灰褐色土 | 2層よりも強い |
| 2 暗褐色土 | 炭化物微量 粘性強い | 7 暗褐色土 | 粘土中や粗い |
| 3 暗褐色土 | 砂質土 炭化物少量 | 8 黄褐色土 | 粘土粗く砂質強い |
| 4 暗褐色土 | 砂質土 粒子粗い | | 砂質強い |

4次SK74

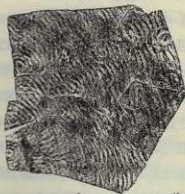


- | | | | |
|-----------|--------------|---------|------------|
| 4次第74号土壌 | 粘質土 | 4 灰褐色土 | 砂質土 |
| B' 1 灰褐色土 | 粘り強く軽石砂子含む | 5 灰褐色土 | 2層よりも強い |
| 2 灰褐色土 | 灰色粘土ブロック多量 | 6 暗灰褐色土 | 粘土中や粗い |
| 3 暗灰褐色土 | 黄褐色シルト質ブロック | 7 暗褐色土 | 砂質土 炭分沈着多量 |
| 4 暗褐色土 | 粘質土 炭化物の塊状堆積 | 8 暗褐色土 | 砂質土 炭分沈着多量 |
| 5 暗褐色土 | 粘質土 炭分沈着多量 | 9 暗褐色土 | 砂質土 炭分沈着多量 |
| 6 暗褐色土 | 粘質土 炭分沈着多量 | | |
| 7 暗褐色土 | 暗褐色粘土・暗灰色粘土 | | |
| 8 暗褐色土 | 暗灰色粘土・暗褐色粘土 | | |
| 9 暗褐色土 | 暗灰色粘土・暗褐色粘土 | | |

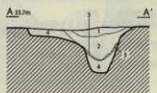
0 2m

第204図 T字形土壌 (2)

3次SK14

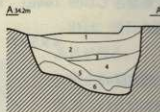
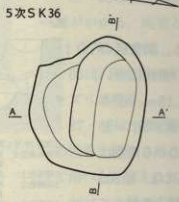


3次SK14



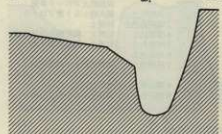
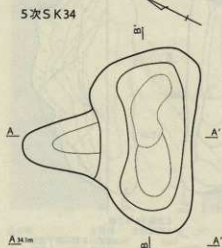
- 3次第 14号土層
 1 暗灰色土 炭化物少量 粘性やや強い
 2 暗灰色土 1層より粘性強く、種子等の有機物含む
 炭化物少量
 3 黒色土 炭化物層
 4 暗灰色土 粘性強い 種子を多量に含む

5次SK36

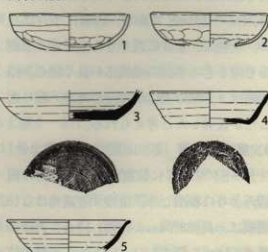


- 5次第 36号土層
 1 暗灰色土 白色粒子・焼土粒子含む 粘性強い
 2 暗灰色土 黄灰色土ブロック少量 粘性強い
 3 暗灰色土 やや砂質 黄灰色土ブロック多量
 4 暗灰色土 焼土粒子・灰色土粒子含む
 4層よりも黒色強い
 5 暗灰色土 暗灰色土ブロック含む 粘性強い
 6 灰褐色土 暗灰色土ブロック含む 粘性強い

5次SK34

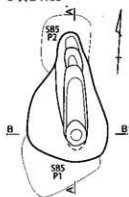


5次SK36

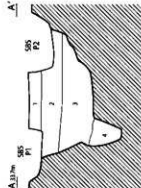


第205図 T字形土坑 (3)・出土遺物

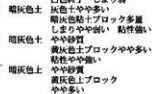
5次SK33



B 33m



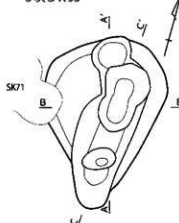
A 33m



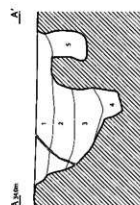
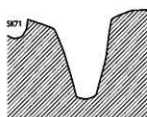
5次SK55



5次SK53



B 34m



A 34m



5次第53号土壌

- 1 暗灰色土 褐色土ブロックやや多い 粘性強い
- 2 暗灰色土 褐色土ブロック少量 粘性強い
- 3 暗灰色土 褐色土ブロック・面灰色土ブロック少量 粘性強い
- 4 黒灰色土 褐色土ブロックやや多い 粘性強い
- 5 暗灰色土 褐色土ブロック少量 粘性強い

0 2m

第206図 T字形土坑 (4)

第98表 3次第14号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	大甕	5	11.7	(5.0)	(13.1)	石英・白色針状物質	良好	灰白色	南比企

第99表 5次第36号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	20	11.7	(5.0)	(3.7)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
2	土師器	坏	20	11.6	(5.0)	(3.3)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
3	須恵器	無白陶	30	11.7	(9.5)	(3.0)	石英・白色針状物質	良好	褐色	南比企
4	須恵器	坏	40	11.9	(7.9)	(3.3)	石英・頁岩	良好	褐色	金山か三邊
5	須恵器	坏	5	12.1	(3.1)	(3.1)	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企

埋没した後、掘り返したと考えられる。

5次第33号土坑 (第206図)

N-3グリッドに位置する。調査区の北辺中央に検出した。5次第5号掘立柱建物跡と重複し、それより古い。規模は、長軸1.95m、短軸0.53m、

入口の長さ1.22m、深さ1.40mである。長軸方位は、N-6°-Wである。南側の底面が、深く小穴状に凹む。北側は、階段状に下る。明瞭な傾斜路はない。

第100表 5次第16号土壌出土遺物観察表

番付	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	碗形環	5	14.4	(11.0)	(3.7)	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
2	土師器	碗形環	10	12.0	(9.2)	(3.4)	角閃石・輝石・鉄粒子	普通	にぶい橙色	ローム台地
3	土師器	碗形環	5	13.1	(9.5)	(2.6)	角閃石・軽石・安山岩	普通	にぶい橙色	利根川
4	土師器	碗形環	5	13.9	(9.2)	(2.9)	角閃石・輝石	普通	橙色	ローム台地
5	土師器	碗形環	10	16.9		(4.3)	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
6	土師器	碗形環	5			(3.8)	角閃石・軽石	良好	橙色	利根川
7	須恵器	環	30	14.7	8.8	4.1	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
8	須恵器	環	40	12.8	7.2	3.7	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
9	須恵器	環	5	13.4		(3.3)	石英・白色針状物質	良好	灰白色	南比企
10	須恵器	環	10	11.8	(6.4)	(3.5)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
11	須恵器	環	5		7.1	(0.8)	石英・白色針状物質	良好	にぶい橙色	南比企
12	須恵器	環	5		5.9	(1.2)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
13	須恵器	環	20	12.0	6.0	3.6	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
14	須恵器	環	100	12.2	5.9	3.8	石英・白色針状物質	良好	黄褐色	南比企
15	須恵器	環	40	12.6	6.7	3.8	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
16	須恵器	環	10		6.0	(2.1)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
17	須恵器	長頸壺	5	8.0		(9.1)	石英	普通	灰白色	東海地方か太田
18	須恵器	壺	5	22.0		(3.3)	石英・白色針状物質	普通	灰褐色	南比企
19	土師器	香炉蓋	10			(2.9)	角閃石・軽石	良好	橙色	利根川

5次第34号土壌 (第205図)

I-2グリッドに位置する。調査区の北辺西端に検出した。遺構の重複はない。規模は、長軸2.75m、短軸1.60m、入口の長さ2.55m、深さ1.67mである。長軸方位は、N-59°-Eである。底面の中央が小高く左右に下る。壁は垂直に近く立ち上がる。北壁に低い段から緩く立ち上がる傾斜路が伸びる。

5次第36号土壌 (第205図)

H-6グリッドに位置する。調査区の西辺中央に検出した。土壌群の中央に検出した。本遺構が最も新しい。規模は、長軸2.10m、短軸1.00m、入口の長さ1.71m、深さ1.03mである。長軸方位は、N-90°-Eである。底面は南へ緩やかに傾斜し、段をもって立ち上がる。

1・2は、土師器の碗形の環である。3は、須恵器の無台碗である。ロクロから糸切り後、底部周辺に回転ヘラケズリを施す。

4・5は、須恵器の環である。4は、ロクロから回転ヘラ起し(ヘラキリ)をした痕跡である。太田市金山丘陵周辺か佐野市三ツ湯窯の製品と考えられる。

本土壌は、Ⅲ沼西V期、8世紀第Ⅳ四半期である。

5次第53号土壌 (第206図)

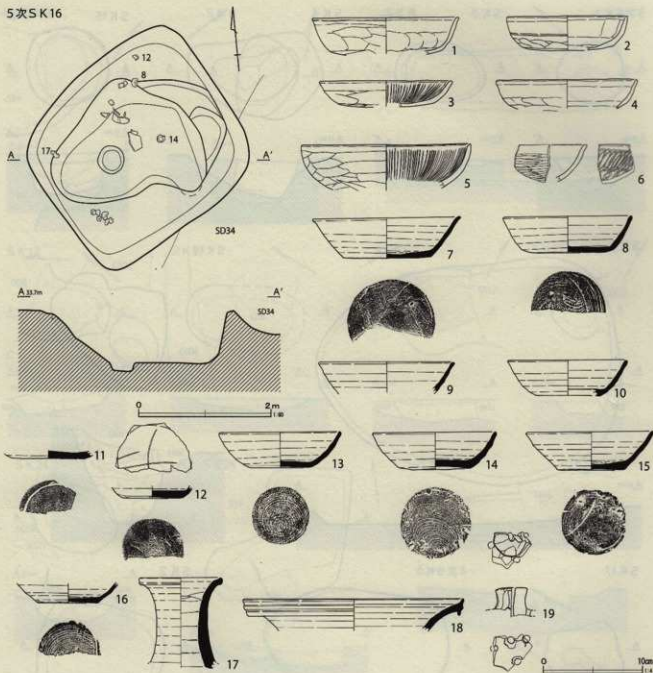
I-6グリッドに位置する。調査区の西辺中央に検出した。5次第71号土壌より古い。規模は、長軸2.62m、短軸0.75m、入口の長さ1.80m、深さ1.29mである。長軸方位は、N-8°-Eである。底面の北側、中央、南寄りの3箇所に小穴を検出した。壁面は深く、垂直である。西壁が段をもち、緩い傾斜路が伸びる。

5次第55号土壌 (第206図)

J-5グリッドに位置する。調査区の西側中央に検出した。単独の土壌である。規模は、長軸1.79m、短軸0.70m、深さ0.73mである。長軸方位は、N-29°-Eである。底面に小穴はない。明確な傾斜路が見えないが、それは、遺構確認面の高さによると考えられる。

Ⅲ土壌

一般的な古代の土壌を94基検出した。形状は、小型で円形、楕円形などが多い。溝に取りつく水溜り状の土壌は、Ⅲ-(5)-(iv) 溝跡で述べることと



第207図 5次第16号土壇・出土遺物

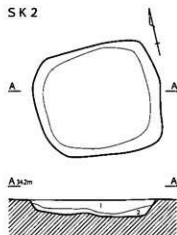
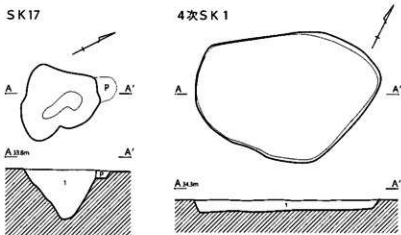
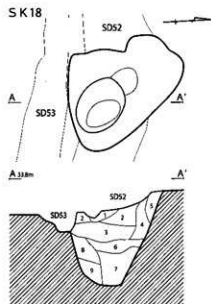
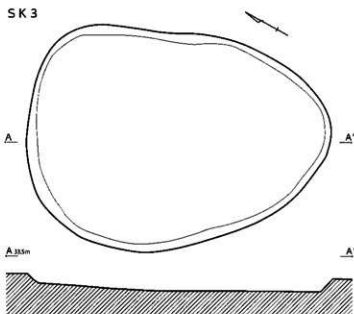
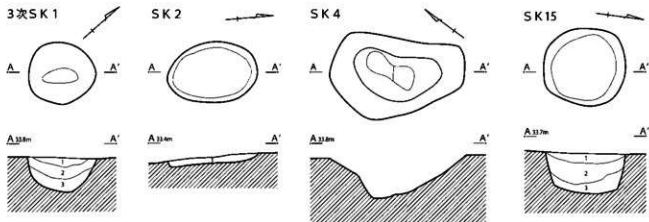
した。ここでは、特徴的な5次第17号土壇、5次16号土壇、及び土壇出土遺物について詳述する。他の土壇については、一覧表（第101表）を参照願いたい。

なお、土壇の形状は、円形、楕円形、正方形、隅丸長方形及び歪形などとした。断面形状は、浅い凹地型、深いすり鉢型、深い凹形などである。3次第3号土壇、5次第16号土壇、5次第17号土壇などを除き小型である。また、土壇は散漫に分布し、

明確な規則性はない。

5次第16号土壇（第207図）

S-9グリッドに位置する。調査区の東部中央に検出した。遺構の東側は、5次第34号溝跡が通る。同溝より古い。当初は、方形の井戸と考えたが、形状が不整形なことと、壁面に湧水による挟り込みがないこと、底面が砂層まで掘られていないことなどから、土壇とした。



- 3次第1号土層
1 黒褐色土 黒褐色粘土ブロック少量
2 暗灰褐色土 黒褐色粘土ブロックやや多い
3 暗灰褐色土 砂较多い
- 3次第2号土層
1 黒褐色土 黒褐色粘土ブロック少量
- 3次第15号土層
1 灰褐色土 炭化物少量 砂質
2 暗灰褐色土 炭化物少量 粘性強い
3 暗灰褐色土 灰色粘土ブロック少量 粘性強い

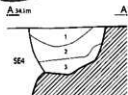
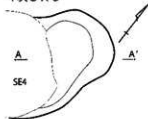
- 3次第17号土層
1 暗灰褐色土 炭化物少量 粒子細かい
- 3次第18号土層
1 灰褐色土 砂質
2 暗灰褐色土 褐色土少量含む
3 灰褐色土 褐色土少量含む
4 暗灰褐色土 砂質 黄色砂含む
5 暗灰褐色土 砂質
6 黒褐色土 砂質
7 黒褐色土 砂質
8 黒褐色土 砂質
9 灰褐色土

- 4次第1号土層
1 暗褐色土 白色粒子・砂粒多量
- 4次第2号土層
1 暗褐色土 黄土粒子・炭化物粒子少量
2 黒褐色土 炭化物粒子少量

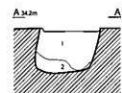
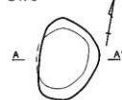
0 2m 1m

第208図 土層 (1)

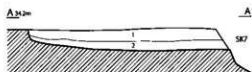
4次SK3



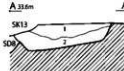
SK6



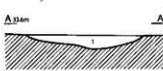
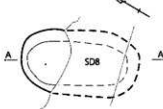
SK8



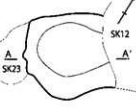
SK12



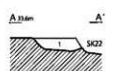
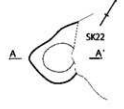
SK13



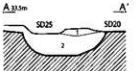
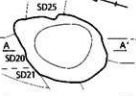
SK22



SK23



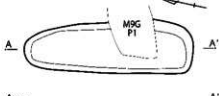
SK24



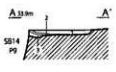
SK26



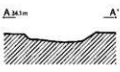
SK27



SK29



SK32



- 4次第3号土塊
1 暗褐色土
2 黒褐色土
3 暗褐色土
4次第6号土塊
1 暗褐色土
2 暗褐色土
4次第8号土塊
1 黒褐色土
2 暗褐色土
4次第12号土塊
1 暗褐色土
2 暗褐色土
4次第13号土塊
1 黒褐色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土
4次第22号土塊
1 黒褐色土
2 暗褐色土
4次第23号土塊
1 暗褐色土
4次第24号土塊
1 暗褐色土
2 黒褐色土
4次第26号土塊
1 黒褐色土
2 暗褐色土
4次第29号土塊
1 暗褐色土
2 黒褐色土
3 暗褐色土

- 浅間山B群土粒子・炭化物粒子少量
炭化物粒子少量
地山粒子・炭化物粒子少量
粘質土
粘性強
深間山B群石粒子・炭化物粒子少量
焼土粒子少量
炭化物粒子少量
砂質 小石少量
焼土粒子少量
炭化物粒子主体 焼土少量
炭化物粒子少量

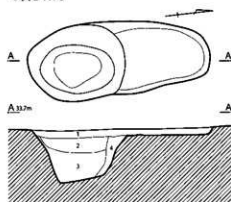
0 2m

第209図 土塊 (2)

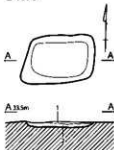


— 260 —

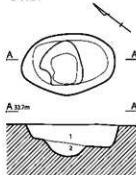
4次SK78



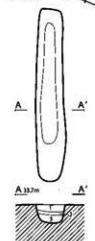
SK79



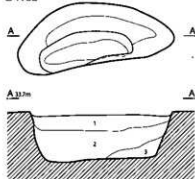
SK81



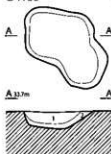
SK89



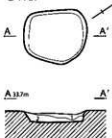
SK82



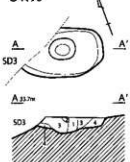
SK86



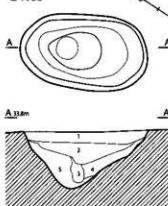
SK87



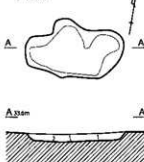
SK90



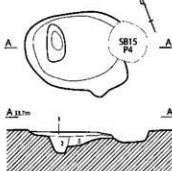
SK88



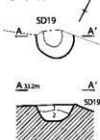
SK94



SK96



SK103



4次第78号土壌

- 1 暗褐色土 炭化物粒少量
- 2 暗褐色土 黄褐色土・古灰色土ブロック多量
- 3 暗褐色土 砂粒多量

4次第79号土壌

- 1 暗褐色土 炭質 粘土化した灰
- 2 暗褐色土 炭層 炭土粒子わずかに含む

4次第81号土壌

- 1 暗褐色土 炭層 炭土粒子わずかに含む
- 2 暗褐色土 炭層 炭土粒子わずかに含む

4次第82号土壌

- 1 暗褐色土 砂粒・黄褐色土粒多量
- 2 暗褐色土 炭層 炭土粒子多量
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量

4次第86号土壌

- 1 暗褐色土 浅間山B軽石少量
- 2 暗褐色土 暗青灰色土ブロック少量

4次第87号土壌

- 1 暗褐色土 砂粒多い
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子少量

4次第88号土壌

- 1 暗褐色土 白色粒 黄褐色土ブロック含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む
- 3 暗褐色土 砂質 黄褐色土・砂粒含む
- 4 暗褐色土 砂質 黄褐色土・砂粒含む
- 5 灰褐色土 砂質 砂粒土体

4次第89号土壌

- 1 暗褐色土 白色粒 灰色粘土粒含む
- 2 暗褐色土 灰色粘土ブロック含む
- 3 暗褐色土 砂質 黄褐色土粒子多い

4次第90号土壌

- 1 暗褐色土 粘土 灰褐色土ブロック含む
- 2 暗褐色土 粘土 灰褐色土・白色粒子含む
- 3 黄褐色土 白色粒子・黄褐色土含む
- 4 黄褐色土 砂質 砂粒土体 しまり強い

4次第94号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック・砂粒多量

4次第96号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色土・炭化物・炭土粒子多い
- 2 暗褐色土 黄褐色土・炭化物・炭土粒子多い

4次第98号土壌

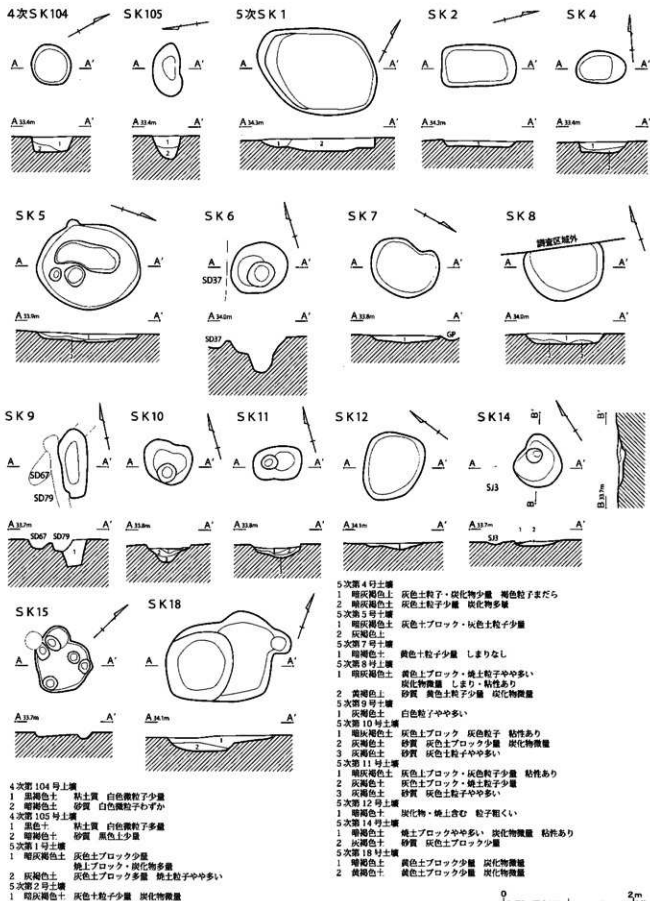
- 1 暗褐色土 黄褐色土・炭化物・炭土粒子多い
- 2 暗褐色土 黄褐色土・炭化物・炭土粒子多い

4次第103号土壌

- 1 明灰色土 粘土質 浅間山B軽石多量
- 2 灰褐色土 粘土質 浅間山B軽石少量

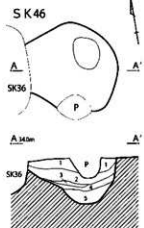
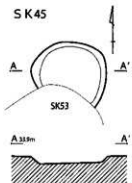
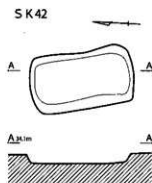
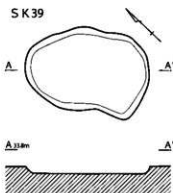
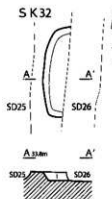
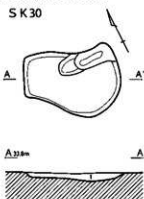
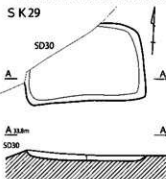
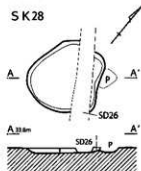
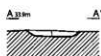
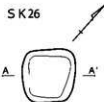
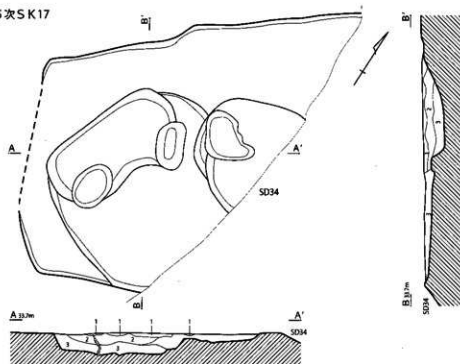
0 2m
1:10

第211図 上城 (4)



第212図 土壌 (5)

5次SK17

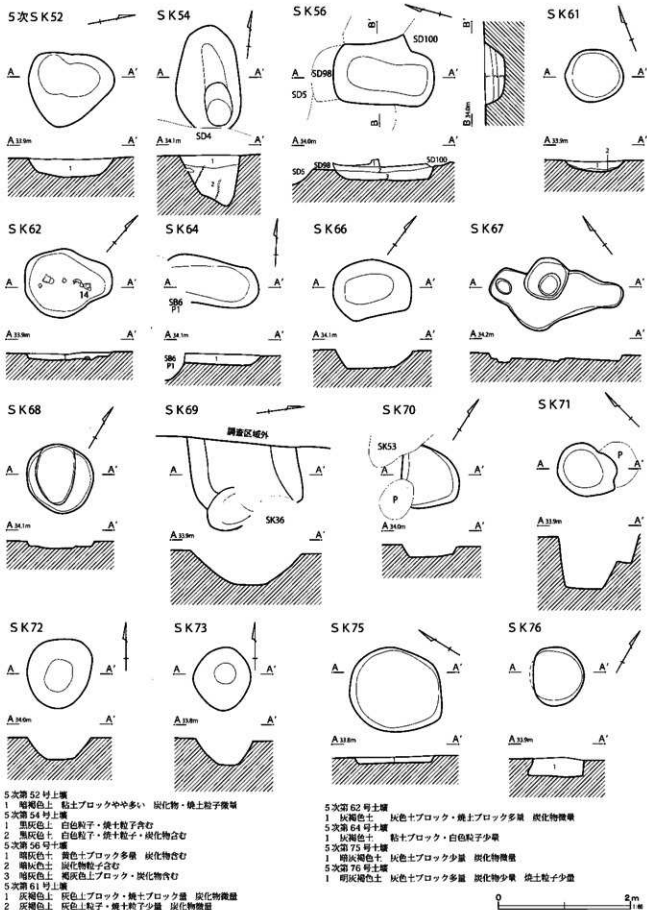


5次第17号土層
1 灰褐色土 礫混
2 暗褐色土 粒子細かく粘性強い かくしまる
3 褐色土 炭化物含む 粒子細かく粘性強い
5次第26号土層
1 暗灰色土 粘土ブロック含む 粘性強い
5次第28号土層
1 暗灰色土 粘土ブロックやや多い 粘性強い
5次第29号土層
1 暗灰色土 黄灰色土ブロック含む 粘性強い
5次第30号土層
1 暗灰色土 ブロック少ない 炭分多い

5次第31号土層
1 暗灰色土 粘土ブロック・白色粒子含む
炭分多い 粘性・しまり強い
5次第32号土層
1 暗灰色土 暗灰色土ブロック・白色粒子含む
5次第46号土層
1 暗灰色土 やや砂質 炭化物粒子含む
2 暗灰色土 炭化物粒子・粘土粒子含む
3 暗灰色土 黒灰色土ブロック・炭化物粒子含む
4 暗灰色土 褐色土ブロック多く含む 褐色土粒子含む
5 暗灰色土 砂質 粘性強い

0 2m

第213図 土壌 (6)



第214図 土坑 (7)

第101表 土壤一覽表

番号	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	方位
血沼西道路3次					
1	円形	1.03	0.94	0.5	N-35°-E
2	楕円形	1.37	0.94	0.1	N-6°-W
3	楕円形	4.03	3.24	0.22	N-30°-W
4	不正形	2.04	1.14	0.63	N-36°-W
15	円形	1.3	1.22	0.6	N-35°-W
17	不正形	1.2	0.8	0.74	N-15°-E
18	不正形	1.9	0.94	1.13	N-29°-W
血沼西道路4次					
1	円形	1.03	0.94	0.5	N-35°-E
2	楕円形	1.37	0.94	0.1	N-6°-W
3	楕円形	4.03	3.24	0.22	N-30°-W
4	不正形	2.04	1.14	0.63	N-36°-W
15	円形	1.3	1.22	0.6	N-35°-W
17	不正形	1.2	0.8	0.74	N-15°-E
18	不正形	1.9	0.94	1.13	N-29°-W
13	楕円形	—	—	0.21	—
22	不正形	—	1.22	0.32	—
23	不正形	—	0.66	0.18	—
24	不正形	1.49	1	0.4	N-10°-E
26	不正形	2.73	1.14	0.23	N-54°-E
27	隅丸長方形	2.56	0.74	0.4	N-10°-W
29	隅丸長方形	—	0.66	0.08	—
32	正方形	1.06	0.88	0.14	N-74°-W
41	円形	0.7	0.66	0.22	N-82°-E
44	円形	0.69	0.54	0.44	N-1°-W
45	隅丸長方形	1.22	0.54	0.24	N-90°-E
47	楕円形	1.4	0.68	0.22	N-72°-E
50	楕円形	1	0.6	0.48	N-24°-W
52	不正形	1.66	1.26	0.52	N-27°-W
53	不正形	1.6	1.48	0.18	N-71°-E
54	楕円形	1.26	0.68	0.67	N-18°-E
58	不正形	—	0.7	0.1	—
60	円形	1.44	1.14	0.04	N-54°-E
61	円形	1	0.92	0.17	N-90°-E
62	楕円形	2.32	1.66	0.18	N-86°-W
73	円形	1.04	0.86	0.34	N-54°-E
75	楕円形	1.12	0.84	0.33	N-85°-W
77	楕円形	0.65	0.46	0.08	N-21°-E
78	隅丸長方形	2.8	1.12	0.82	N-6°-E
79	正方形	1.06	0.72	0.1	N-87°-E
81	楕円形	1.45	0.91	0.5	N-42°-W
82	楕円形	2.43	0.95	0.68	N-81°-E
86	不正形	1.52	0.73	0.26	N-24°-W
87	正方形	0.97	0.8	0.14	N-34°-E
88	楕円形	1.97	1.14	0.86	N-30°-W
89	隅丸長方形	2.65	0.41	0.28	N-65°-E
90	楕円形	—	0.76	0.24	—

番号	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	方位
94	不正形	1.52	0.7	0.14	N-74°-E
96	不正形	—	1.18	0.3	—
103	不正形	—	0.56	0.26	—
104	円形	0.66	0.59	0.24	N-88°-E
105	楕円形	0.81	0.42	0.36	N-79°-W
血沼西道路5次					
1	楕円形	1.91	1.32	0.2	N-90°-E
2	楕円形	1.15	0.64	0.09	N-16°-E
4	楕円形	0.78	0.5	0.19	N-86°-W
5	円形	1.59	1.3	0.14	N-20°-W
6	円形	0.9	0.76	0.52	N-90°-E
7	楕円形	1.05	0.78	0.11	N-29°-W
8	円形	—	—	0.16	—
9	楕円形	1.05	0.31	0.4	N-15°-E
10	円形	0.77	0.61	0.2	N-53°-W
11	楕円形	0.73	0.49	0.16	N-82°-W
12	円形	1.07	0.89	0.1	N-73°-E
14	不正形	0.81	0.68	0.06	N-34°-E
15	不正形	1	0.84	0.1	N-50°-W
18	不正形	1.99	1.24	0.23	N-53°-E
26	正方形	0.81	0.8	0.09	N-49°-E
28	不正形	1.21	0.9	0.07	N-28°-E
29	正方形	1.87	1.18	0.1	N-71°-E
30	不正形	1.5	0.8	0.12	N-64°-W
31	不正形	1.61	—	0.12	—
32	楕円形	1.37	—	0.12	—
39	楕円形	1.9	1.22	0.12	N-43°-W
42	隅丸長方形	1.6	0.85	0.15	N-13°-W
45	円形	—	—	0.1	—
46	円形	—	—	0.69	—
52	不正形	1.3	0.98	0.26	N-0°
54	(楕円形)	—	0.91	0.78	—
56	不正形	1.54	0.95	0.31	N-15°-W
59	不正形	1.05	0.98	0.45	N-81°-W
61	円形	0.88	0.8	0.12	N-70°-W
62	不正形	1.34	0.8	0.08	N-39°-E
64	(楕円形)	—	0.66	0.16	—
66	楕円形	1.18	0.86	0.28	N-47°-E
67	不正形	2.04	0.68	0.12	N-48°-W
68	円形	1.06	1	0.12	N-42°-W
69	不正形	—	—	0.52	—
70	(楕円形)	0.92	0.83	0.16	N-35°-W
71	不正形	1.21	0.64	0.8	N-46°-W
72	円形	1.11	0.97	0.33	N-30°-E
73	円形	0.94	0.86	0.4	N-0°
75	円形	1.5	1.28	0.9	N-0°
76	楕円形	0.89	0.78	0.28	N-32°-W

第102表 土壌出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	5		(7.9)	(0.9)	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企 3次SK4
2	土師質土器	高台付碗	5			(1.5)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川 3次SK4
3	須恵器	壺	5		(11.1)	(3.2)	石英・白色針状物質	不良	灰色	南比企 3次SK4
4	須恵器	長頸壺	5			(1.7)	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企 4次SK8
5	土師質土器	高台付碗	90	13.7	6.8	5.1	角閃石・軽石	普通	明褐色	利根川 4次SK12
6	須恵器	蓋	20	12.2		2.7	石英・白色針状物質	普通	明褐色	南比企 4次SK28
7	須恵器	坏	5	11.3		(3.5)	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企 4次SK58
8	須恵器	長頸壺	5			(2.4)	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企 5次SK1
9	土師器	碗形坏	40	9.2	(7.0)	(3.5)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川 5次SK12
10	須恵器	坏	10		6.7	(2.1)	石英・白色針状物質	普通	にぶい褐色	南比企 5次SK12
11	土師器	甕	5	13.3		(6.5)	角閃石・軽石・石英	普通	褐色	利根川 5次SK18
12	土師器	碗形坏	5	13.4		(3.6)	石英・白色針状物質	普通	にぶい褐色	南比企 5次SK61
13	土師器	皿形坏	10	18.0		(3.5)	角閃石	普通	褐色	ローム台地 5次SK62
14	須恵器	高台付碗	50		7.7	(4.1)	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企 5次SK62
15	土師器	甕	5	19.8		(6.8)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川 5次SK62
16	土師器	碗形坏	5	12.3		(2.5)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川 5次SK71

規模は、長軸3.04m、短軸2.80m、深さ0.72mである。長軸方位は、N-43°-Eである。

1～6は、土師器の坏である。1・2・4は、碗形の坏である。3は、平底の皿形の坏である。内面に放射状暗文を施す。5・6は、大振りの碗形の坏である。5は、内面に放射状暗文を施す。外面はヘラケズリのままである。6は、外面に横方向のヘラミガキを丁寧に施し、内面に二段の螺旋状暗文を施す。

7～16は、須恵器の坏である。7は、手持ちのヘラケズリで底部全面を薄く削り込む。8・11～13は、ロクロから糸切り後、底部を回転ヘラケズリで調整する。14～16は、ロクロから糸切り後の調整は行わない。

17は、須恵器の長頸壺である。18は、須恵器の甕である。

19は、土師器の香炉の蓋である。摘みの上部から内面に向かって、径8mmほどの孔が貫通する。その周囲には、同様の円孔が穿孔される。残存するのは三箇所であるが、本来、四箇所と考えられる。水溜り状土壌付き溝の3次第12号溝跡から出土した第263図3と共通する。

本土壌の出土遺物は、8世紀第Ⅲ四半期から9世

紀第Ⅰ四半期に及ぶ。

5次第17号土壌 (第213図)

S-8グリッドに位置する。調査区の東部中央に検出した。遺構の東側を5次第34号溝跡によって壊される。同遺構より古い。浅い竪穴状のくぼみの中に楕円形の土壌と小穴を検出した。遺構堆積土に液状化現象の影響を確認できた。規模は、長軸(5.10)m、短軸4.08m、深さ0.21mである。長軸方位は、N-40°-Eである。

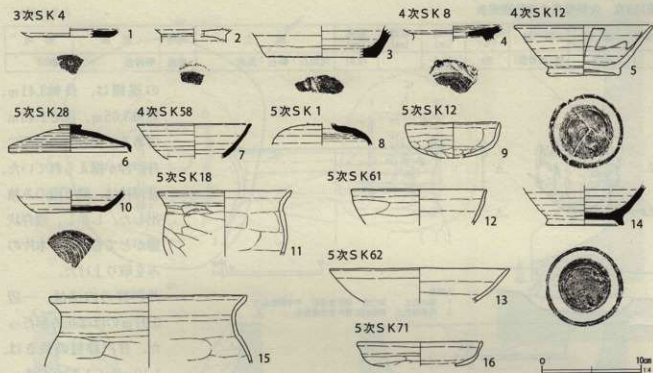
次に土壌から出土した遺物について詳述する。

1～3は、3次第4号土壌から出土した。1は須恵器の坏で、ロクロから糸切り後、底部を回転ヘラケズリで調整する。2は、土師質土器の高台付碗である。ロクロから糸切り後、底部周辺に高台をめぐらす。3は須恵器の壺である。

4は、4次第8号土壌から出土した須恵器の長頸壺である。高台の一部が欠損する。

5は、4次第12号土壌から出土した土師質土器の高台付碗である。ロクロから糸切り後、底部周辺に低い三角形の高台をめぐらす。

6は、4次第28号土壌から出土した須恵器の蓋である。ボタン状の摘がつき、口縁部は鵜首状である。



第215図 土壇出土遺物

7は、4次第58号土壇から出土した須恵器の坏である。

8は、5次第1号土壇から出土した須恵器の長頸壺である。口縁部から肩部の部位と、肩部で袋状となる胴部を結合する。

9・10は、5次第12号土壇から出土した。9は、土師器の坏である。碗形の坏である。10は、須恵器の坏である。ロクロから糸切り後、底部の調整を行わない。

11は、5次第18号土壇から出土した土師器の甕である。

12は、5次第61号土壇から出土した土師器の坏である。深めの碗形の坏である。

13～15は、5次第62号土壇から出土した。13は、土師器の坏である。皿形の坏と考えた。14は、須恵器の高台付碗である。ロクロから糸切り後、底部周辺に台形状の高台をめぐらす。15は、土師器の甕である。「コ」の字状口縁の甕である。

16は、5次第71号土壇から出土した土師器の坏である。碗形の坏である。

iv 火葬墓（第216図）

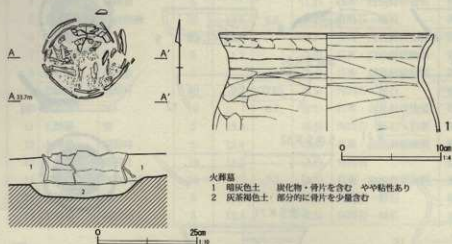
J-14グリッドに位置する。重機で耕作土を除去した時に蔵骨器が、上部を削られた状態で出土した。蔵骨器内には、骨片や炭化物が充填されていた。蔵骨器を埋納した土壇の平面確認を行ったが、検出できなかった。また、土層断面の確認も行ったが、旧表土（1層）中に掘り込みは検出できなかった。

しかし、基盤層に、僅かながら掘り込みが確認できた。掘り込みが残るということは、蔵骨器を覆う封土があり、長年のうちに封土が流失したと考えたい。なお、掘り込みの2層にも骨片や木炭が見られた。木炭や骨片については、骨同定、放射性炭素年代測定、炭化材同定科学分析を行った。V-5～7を参照していただきたい。

蔵骨器は、蓋が無く伏せた状態で出土した。蔵骨器の中には、骨片や炭化物が、満遍なく充填されており、隙間がなかった。おそらく、蔵骨器の口に紙や樹皮・木の葉などで蓋をし、下を向けて据えたと考えられる。

第103表 火葬墓出土物観察表

番号	種別	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	甕(蔵骨器)	30	21.4		(9.9)	角閃石・軽石・頁岩	普通	明褐色	利根川



第216図 火葬墓・出土遺物

出土した蔵骨器1は、土師器の甕である。器肉の薄い「く」の字状口縁の甕である。火葬墓に蔵骨器として用いられた甕ではあるが、一般の甕と大差がない。

(4) 井戸跡

皿沼西遺跡では、古代の井戸跡を4次調査で4基、5次調査で4基を検出した。井戸跡は、自然堤防の南側縁辺と中央部に検出した。皿沼西遺跡の湧水深度は、夏季と冬季で大きく異なる。夏季は地表下50cmほどで水が湧くが、冬季は1.5mほど下げないと、水は湧かない。

そのため、井戸の大半が、地表面から1.5m以上掘り込まれていた。その中で4次第5号井戸と5次第1号井戸は、井戸枠の最下段（基礎組）が残っていた。この二つの井戸は、半裁を行い、土層断面観察を詳細に行った。

4次第5号井戸跡（第217・218図）

O-9グリッドに位置する。調査区の東側中央に検出した。4次第3号溝跡と重複し、それより古い。井戸の掘り方は、円形で大型である。掘り方

の規模は、長軸3.41m、短軸3.05m、深さ1.46mである。掘り方の底面に井戸枠が据えられていた。井戸枠は、最下段のみ検出した。しかし、残存状態がとても悪く、木片のみを取り上げた。

井戸枠の内法は、一辺0.97mのほぼ正方形だった。井戸枠材の長さは、1.10mから1.33mであった。また、井戸枠の中央には、井戸底をさらに掘

りくぼめ、円形の曲げ物を据えていた。この曲げ物も残存状態が悪く、取り上げられなかった。

ところで、井戸の底から5cmに、握り拳大の小石や土器片が、敷き詰められていた。これは、井戸の浄化のためか、井戸の埋没にあたり投棄したのか、判断できないが、井戸底近くであることから、前者と考えておきたい。

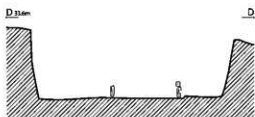
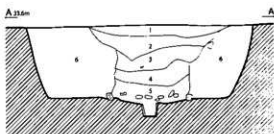
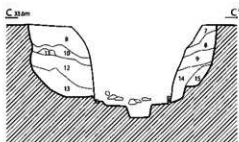
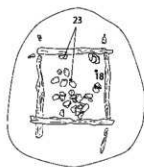
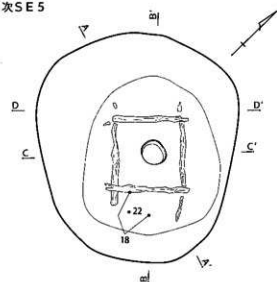
井戸底から0.32mまでは、井戸枠の埋没時まで保持されていた。なお、それ以上は、井戸枠を抜き取ったか腐食したと考えられる。

遺物は、井戸の掘り方、井戸枠内から出土した。1・2は、須恵器の蓋である。両者ともボタン状の摘みをつける。1の天井部外面には、ロクロからの糸切り痕跡を残す。糸切り後、周辺ヘラケズリを施す。

3～10は、須恵器の坏である。5～10は、ロクロから糸切り後の調整は行わない。11～14は、須恵器の高台付碗である。ロクロから糸切り後、底部周辺に台形状の高台をめぐらす。

15は、須恵器の壺である。小型の鉢形の壺と考

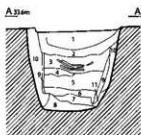
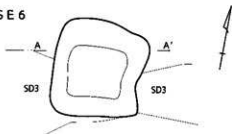
4次SE 5



4次第5号井戸跡

- 1 暗灰色土 焼土・炭化物粒子・暗褐色土ブロック・浅間山B軽石多量
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子・暗褐色土ブロック
- 3 黒褐色土 焼土・炭化物ブロック・暗褐色土ブロック多量
- 4 黒褐色土 焼土・炭化物粒子少量 鉄分の付着多い
- 5 黒褐色土 炭化物粒子少量 小礫を含む
- 6 暗褐色土 黒褐色土ブロック多量
- 7 暗褐色土 黒褐色土粒子多量 粘質土
- 8 暗褐色土 白色粒子・黒褐色土ブロック多量 粘質土
- 9 暗褐色土 黒褐色土粒子多量 粘質土
- 10 黒褐色土 炭化物粒子多量
- 11 暗灰色土 暗褐色土・黒褐色土粒子多量
- 12 暗褐色土 黒褐色土ブロック 小石多量 砂質
- 13 暗褐色土 小石多量 砂質
- 14 暗褐色土 暗褐色土・黒褐色土ブロック多量
- 15 暗褐色土 黒褐色土粒子・小石多量 砂質

4次SE 6



4次第6号井戸跡

- 1 暗褐色土 暗褐色土ブロック・小礫少量
- 2 暗褐色土 暗褐色土ブロック・炭化物粒子多量
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物ブロック多量
- 4 暗褐色土 暗褐色土ブロック少量
- 5 暗褐色土 暗褐色土・焼土・炭化物粒子を多く含む 粘質土
- 6 暗褐色土 灰色砂質土・炭化物粒子少量
- 7 暗褐色土 暗褐色土粘質土ブロック少量 砂質
- 8 暗褐色土 小礫多量 砂質
- 9 暗褐色土 炭化物粒子少量
- 10 暗褐色土 炭化物粒子・暗褐色土粒子少量 砂質
- 11 暗褐色土 鉄分を帯びる 砂質



第217図 4次第5・6号井戸跡

第104表 4次第5号井戸跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	蓋	30			(1.8)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
2	須恵器	蓋	5			(1.2)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
3	須恵器	坏	20	11.5		(4.5)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
4	須恵器	坏	10	12.2		(2.7)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
5	須恵器	坏	10		6.7	(1.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
6	須恵器	坏	20		6.7	(3.4)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
7	須恵器	坏	20	11.2	5.4	2.9	石英・結晶片岩	普通	灰白色	末野
8	須恵器	坏	10		5.5	(1.2)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
9	須恵器	坏	5		(6.0)	(1.2)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
10	須恵器	坏	5		6.2	(0.8)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
11	須恵器	高台付碗	10		8.1	(2.6)	石英・結晶片岩	普通	灰白色	末野
12	須恵器	高台付碗	10		7.8	(2.2)	石英・結晶片岩	普通	灰白色	末野
13	須恵器	高台付碗	5		(6.1)	(1.9)	角閃石・輝石	普通	暗灰色	利根川
14	須恵器	高台付碗	10			(2.5)	石英・結晶片岩	不良	灰白色	末野
15	須恵器	小型鉢形壺	5		(8.0)	(3.4)	石英・結晶片岩	良好	灰色	末野
16	須恵器	小型壺	5		7.0	(4.0)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
17	須恵器	大甕	5			(12.5)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
18	須恵器	大甕	5			(8.8)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
19	須恵器	大甕	5	22.0		(5.8)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
20	須恵器	大甕	5			(2.4)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
21	須恵器	大甕	5			(1.8)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
22	灰釉陶器	長頸壺	5			(15.8)	石英	良好	にぶい黄褐色	猿投
23	須恵器	長頸壺	50			(14.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企

えられる。16は、須恵器の小型壺である。胴部の細いいわゆる壺G（華瓶）か、口縁部の短い短頸壺である。ロクロから糸切り後、調整を加えない。

17～21は、須恵器の大甕の口縁部である。17・18は、まず口縁部に四条の沈線を引き、三本一単位の木口状工具で粗い波状文を描く。二点は、同一個体かもしれない。19～21は、口縁部に文様を施さない。

22は、灰釉陶器の長頸壺である。自然釉の掛かる猿投窯の製品である。23は、須恵器の長頸壺である。両者ともロクロで引き上げられ、外面の胴下半が回転ヘラケズリで調整される。

本井戸跡は、皿沼西Ⅶ期、9世紀第Ⅱ四半期である。

4次第6号井戸跡（第217・219図）

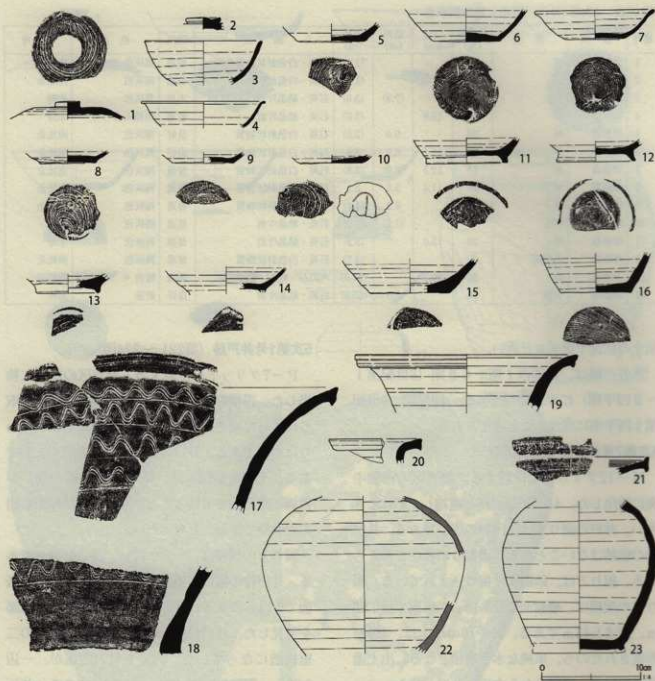
J-11グリッドに位置する。調査区の東側中央に検出した。4次第3号溝跡と重複し、それより古い。井戸の掘り方は、方形で小型である。土層

断面図の9層は、木質を含む粘質土であることから井戸枠の残存と考えられる。井戸枠と掘り方の間は狭い。樽状、または桶状の曲げ物を井戸枠とし、掘り方いっぱい内に納めていたと考えられる。残存状態が悪く、取り上げられなかった。

掘り方の規模は、長軸1.48m、短軸1.38m、深さ1.18mである。また、井戸枠の規模は、幅90cm、高さ123cmであった。なお、井戸枠の底面と、掘り方底面との間に8層を挟む。井戸枠の形状を確認できなかった。

井戸枠の底部から80cmに須恵器大甕14の破片が、折り重なって発見された。20cm四方の破片が多い。底部から肩部の破片である。二次的に胴部のみを利用した可能性がある。この甕を井戸に埋設した後、井戸枠の上部が腐食して、土砂（2層）が堆積したと考えられる。

遺物は、井戸の掘り方（8～13）、井戸枠内（1～7・14）から出土した。1・2は、須恵器の蓋で



第218図 4次第5号井戸跡出土遺物

ある。1は、ボタン状の摘みである。2の天井部外面には、ロクロからの糸切り痕跡が残る。3～11は、須恵器の坏である。3は、底部の全面を手持ちヘラケズリで調整する。4～7は、ロクロから糸切り後、底部を回転ヘラケズリで調整する。8～10は、ロクロから糸切り後の調整は行わない。

12は、須恵器の小型壺である。肩部内面に頸部接合の粘土の絞り込みがみられる。小型の長頸壺

か、いわゆる壺G（華瓶）と考えられる。

13は、土師器の甕である。「コ」の字状口縁装である。器内はとても薄い。

14は、須恵器の大甕である。底部から肩部にかけての破片である。内面には同心円文の当て具痕跡、外面には斜行格子目文の叩き板痕跡が残る。割れた時の衝撃で内面の器表が、爆れている。口縁部は欠損するが、第218図17の口縁部破片が、

第105表 4次第6号井戸跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	蓋	5			(1.6)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
2	須恵器	蓋	10			(1.7)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
3	須恵器	坏	20		(7.8)	(3.0)	石英・結晶片岩	不良	黄灰色	末野
4	須恵器	坏	20	15.0		(3.9)	石英・結晶片岩	普通	明褐灰色	末野
5	須恵器	坏	30		9.0	(2.6)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
6	須恵器	坏	20	12.7	6.9	3.8	石英・白色針状物質	良好	黄灰色	南比企
7	須恵器	坏	10	12.3	(6.9)	(3.8)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
8	須恵器	坏	20	11.4	5.5	3.1	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
9	須恵器	坏	10		6.3	(1.1)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
10	須恵器	坏	5		(7.2)	(1.2)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
11	須恵器	坏	10	13.0		(3.5)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
12	須恵器	小型壺	5			(3.7)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
13	土師器	甕	30	20.7		(21.0)	角閃石・軽石・頁岩	普通	褐色	利根川
14	須恵器	大甕	10		7.0	(55.9)	石英・結晶片岩	良好	褐色	末野

胎土の状況や焼成など近い。

本井戸跡は、Ⅲ沼西Ⅰ期からⅡ期（8世紀Ⅰ～Ⅱ四半期）にかけてつくられ、同Ⅳ期、9世紀第Ⅰ四半期に埋没したと考えられる。

4次第7号井戸跡（第220図）

M-12グリッドに位置する。調査区の西側中央に検出した。4次第6号溝跡と重複し、それより古い。井戸の掘り方は、円形で小型である。井戸枠の痕跡はないことから、素掘りの井戸と考えられる。掘り方は、砂層まで掘り込まれている。掘り方の規模は、確認面で径1.18m、底面で径0.56m、深さ1.43mである。井戸跡の埋土は、4層が形成されたのち、単純な水平堆積となる。出土遺物はないが、堆積土から古代の井戸とした。

4次第8号井戸跡（第220図）

N-8グリッドに位置する。調査区の中央東側に検出した。農業用暗渠排水路によって上面が壊された。井戸の掘り方は、円形で小型である。遺構確認面から60cmが、湧水点だった。側壁を湧水が、大きく挟り込み洞状になっていた。井戸枠の痕跡は見られない。素掘りの井戸である。3・4層は井戸の自然埋没層、2層は壁面の崩落層である。出土遺物はないが、堆積土の状況から古代の井戸と考えた。

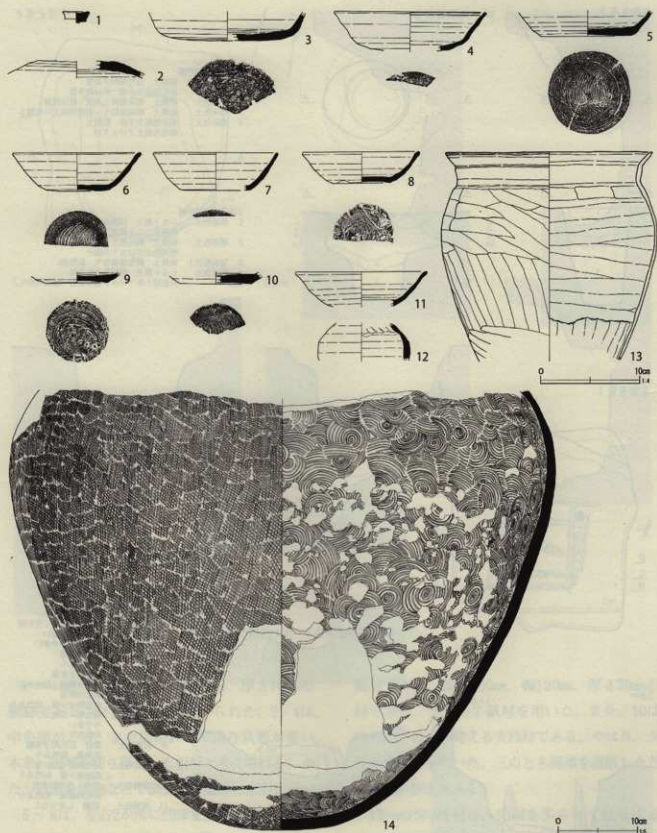
5次第1号井戸跡（第221～224図）

P-7グリッドに位置する。調査区の中央に検出した。遺構の重複はないが、南側を大きく土取りによって壊されていた。液状化現象とのかかわりは不明である。井戸の掘り方は、方形で大型である。土層断面図には、井戸枠の痕跡（4層）が遺構の確認面まで残ることから、地表に井桁を組んだ井戸であったと考えたい。

掘り方の規模は、一辺2.77m、深さ1.72mである。井戸枠の幅は、遺構確認面で一辺1.37m、底面で0.71mである。井戸跡の底に井戸枠の基底部を発見した。井戸枠は、内置き材と外置き材の二重構造になっていた。内置き材の内法が、一辺0.73m、側壁材の内法が一辺1.25mである。井戸枠は、底面から50cmまで残っていた。四隅柱の上部と側壁の上部は、立ち腐れ状態であった。

井戸枠は、まず幅広の板材5～8の両脇を「四」字型に加工して組み合わせ、四隅の外に柱材12～15を打ち込む。この柱材のさらに外側に板材1～4を縦置きし、側壁として積み上げていく。東西の側壁と内置き材の間には、丸太の半割材10・11を横置きし、また井戸枠の内側にも同様の半割材9を横置きし、東西方向の横ずれを防いだ。

なお、柱材13～15に残る^{はてな}柄穴は、井戸枠を支



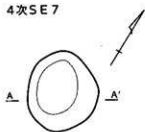
第219図 4次第6号井戸跡出土遺物

える横棧（梁）を通した穴である。

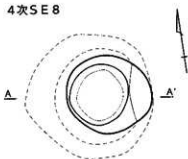
井戸枠を構成した木材は、科学分析（V-4）の結果、すべてクリ材であった。1～15は、井戸枠

に用いられた木材である。1～4は外側の枠木、5～8は内側の枠木、9～11はプレ止めの支持材である。12～15は、四隅に建てられた柱材である。

4次SE7



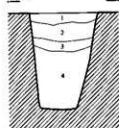
4次SE8



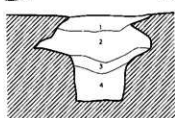
4次第7号井戸跡

- 1 暗褐色土 粘質土 白色微粒子多量
 2 暗褐色土 灰化微粒子少量 炭分多量
 3 暗褐色土 粘質土 暗灰色粘土多量 炭分少量
 4 明灰色土 粘質土 暗灰色粘土・明灰色粘土の互層
 明灰色粘土主体 粘質土
 暗灰色粘土ブロック状

A 33.4m



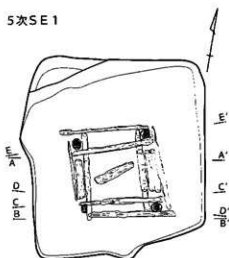
A 33.8m



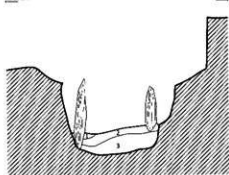
4次第8号井戸跡

- 1 暗褐色土 シルト質土 浅間山B軽石多量
 2 暗褐色土 黄褐色シルト質土・暗褐色土の混在
 3 暗褐色土 粘質土 暗灰色粘土・粘質土
 4 明灰色土 シルト質土 炭分少量有り 粘性強い
 灰褐色粘土をブロック状に含む 鉄屑有り

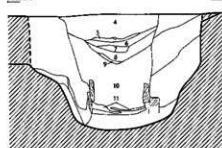
5次SE1



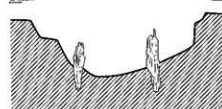
E 33.8m



A 33.8m



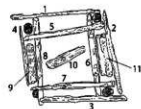
D 32.2m



C 32.2m



B 31.7m

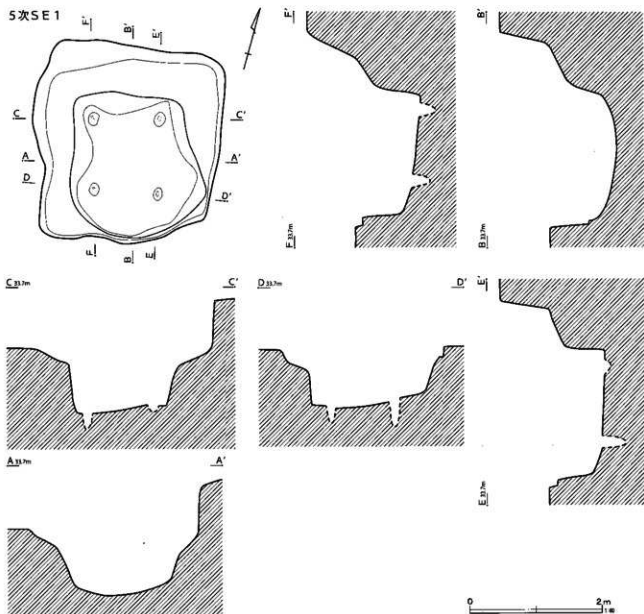


5次第1号井戸跡

- 1 灰白色土 砂質 粒子細かい
 2 黄褐色土 砂質 炭分多く含む層
 3 灰褐色土 砂質 粒子細かい
 4 灰褐色土 白色粒子やや多い
 炭化物微量 しまりあり
 5 灰褐色土 白色粒子多量
 炭化物微量 粘性あり
 6 暗灰褐色土 炭化物微量
 白色粒子少量 粘性あり
 7 暗灰褐色土 炭化物・白色土ブロック
 やや多い 粘性あり
 8 灰褐色土 砂質 白色粒子多量
 炭化物微量 粘性あり
 9 暗灰褐色土 炭化物多く含む層
 白色粒少量 粘性あり
 10 灰褐色土 砂質 白色粒多量
 炭化物微量 粘性あり
 11 灰褐色土 砂質 しまりなし



第220図 4次第7・8号井戸跡、5次第1号井戸跡 (1)



第221図 5次第1号井戸跡 (2)

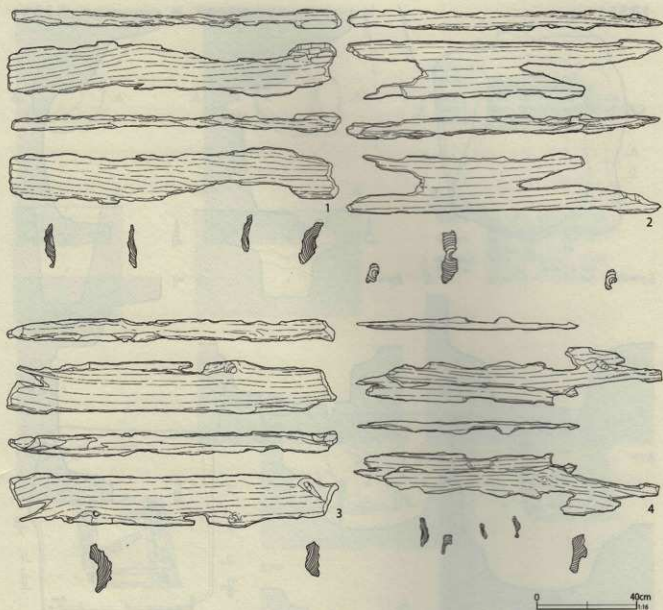
1～4は、長さ1330mm、幅180mm、厚さ70mmの板材である。クリの辺材が用いられた。2・4は、中央部がこけ、また縦割れて遺存状態が悪い。本来、両端を切り落とした板材と考えられる。また、表面を槍鉋などで調整した痕跡はない。

5～8は、左右2か所に凹部を設け、組み合わせて井戸枠の最下段を構成していた。長さ1300mm、幅260mm、厚さ75mmの板材である。クリの辺材が用いられた。左右の凹部はこけ、全体の形状はわからない。やはり、表面の調整痕は確認できない。

9・11は、内枠と外枠の間に入れたプレ止めの

板材である。長さ600mm、幅120mm、厚さ30mmの材である。クリの半截材^{はんざい}を用いた。また、10は、内枠のたわみを抑える支持材である。やはり、クリの半截材を用いた。三点とも両端を截断^{せつだん}しただけの粗い加工である。

12～15の柱材は、先端を尖らせて杭とする。クリの芯材である。上部は腐食して残存しない。それぞれ一方に方形の納穴^{ななけ}があげられる。径は140mmと共通するが、長さは最大で1020mm、最小で690mmである。これは、粘土層や砂層が堆積する地中の状況にあわせて、打ち込み長さが異なっ



第222図 5次第1号井戸跡井戸枠 (1)

たためと考えたい。

また柄穴は、13・14が幅39mm、高さ35mmと小さく、15が幅50mm、高さ40mmと大きい。12は、柄穴を確認できない。

16～20は、井戸枠の内側、井戸の埋土から出土した土器である。16・17は、土師器の坏である。16は、外反する平底の坏である。17は、器肉が厚く、「ハ」の字に開く坏である。底部は、ケズリのままである。

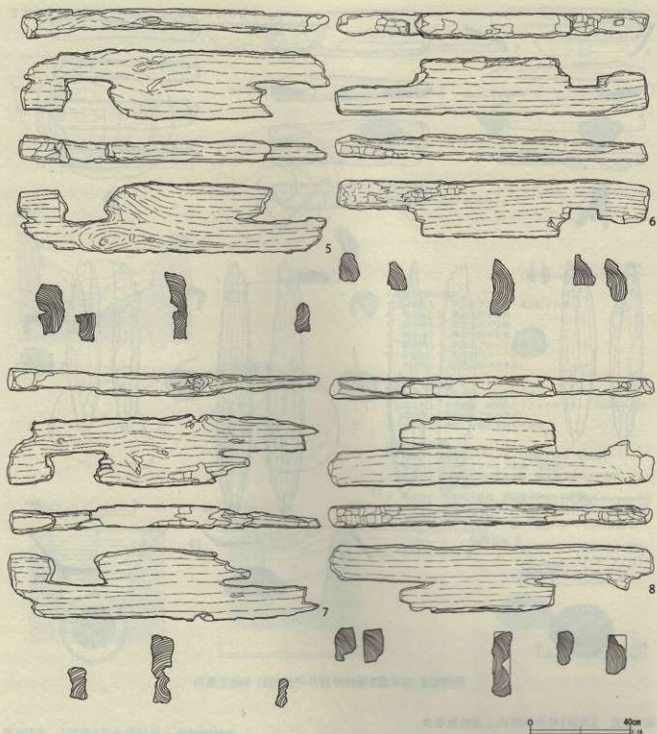
18・19は、須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整は行わない。20は、須恵器の高台付

碗である。ロクロから糸切り後、底部周辺に台形状の高台をめぐらす。なお、井戸の埋土について、土壌の科学分析を行った。詳細は、(V-3)を参照していただきたい。

本井戸跡は、皿沼西Ⅶ期、9世紀Ⅱ四半期である。

5次第5号井戸跡 (第225図)

H-5グリッドに位置する。調査区の西端中央に検出した。5次第92号溝跡と重複し、それより古い。液状化現象とのかかわりは不明である。掘り方と井戸枠の識別はできず、素掘りの井戸と考



第223図 5次第1号井戸跡井戸枠 (2)

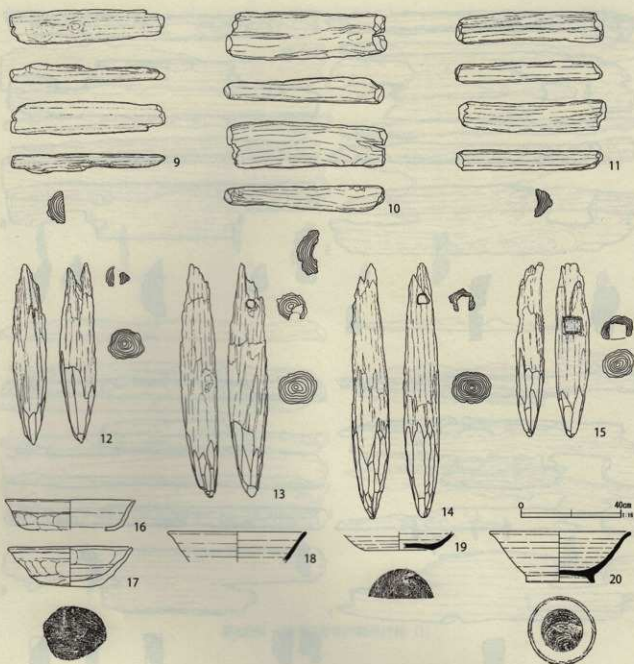
えられる。円形の小型の井戸である。規模は、長径2.06m、短径1.74m、深さ1.39mである。井戸の底部が円形に掘り込まれる。

埋土から土器が出土した。1は、土師器の平底の坏である。口唇部付近までヘラケズリを施す。

2・3は、須恵器の蓋である。3は、口唇部が鶴

頸状となる。4～6は、須恵器の坏である。5は、ロクロから糸切り後、底部周辺に回転ヘラケズリを行う。6は、ロクロから糸切り後の調整は行わない。7は高台付埴である。

8は、須恵器の甗である。中央に円孔、四方に楕円形の孔が開く。



第224図 5次第1号井戸跡井戸枠 (3)・出土遺物

第106表 5次第1号井戸跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
16	土師器	坏	5	12.9	(8.8)	(3.1)	角閃石・輝石	普通	にぶい橙色	ローム台地
17	土師器	坏	100	12.3	6.0	4.0	角閃石・軽石	普通	浅黄橙色	利根川
18	須恵器	坏	5	13.7		(3.2)	石英・結晶片岩	良好	褐灰色	末野
19	須恵器	坏	10		(6.7)	(1.8)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
20	須恵器	高台付椀	60	13.9	6.7	5.1	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野

9は、須恵器の甕である。

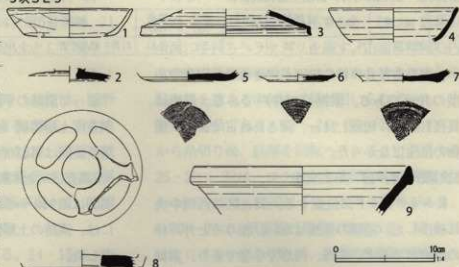
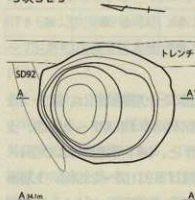
本井戸跡は、皿沼西IV期、8世紀第Ⅲ四半期である。

5次第7号井戸跡 (第225図)

K-4グリッドに位置する。調査区の西側中央に検出した。5次第6号溝跡と重複し、それより古

5次SE5

5次SE5



5次第5号井戸跡

- 1 灰褐色土 灰褐色土ブロック・焼土粒子少量
- 2 暗灰褐色土 灰褐色土粒子少量
- 3 暗灰褐色土 灰褐色土粒子少量
- 4 灰褐色土 灰褐色土粒子少量
- 5 黄褐色土 灰褐色土ブロック多量
- 6 灰褐色土 灰褐色土ブロック多量
- 7 灰褐色土 灰褐色土粒子や多い

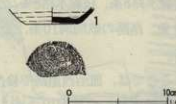
5次第7号井戸跡

- 1 暗灰褐色土 やや砂質 褐色土粒子含む
- 2 暗灰褐色土 やや砂質 暗灰褐色土ブロックやや多い 白色粒子含む
- 3 暗灰褐色土 暗灰褐色土ブロック多い
- 4 暗灰褐色土 砂質 灰褐色土ブロック含む

5次第8号井戸跡

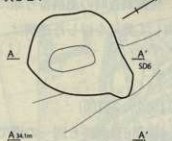
- 1 黄灰褐色土 灰褐色土ブロック・白色粒子含む 粘性強い
- 2 暗灰褐色土 灰褐色土ブロック多量 粘性強い
- 3 暗灰褐色土 灰褐色土ブロック少量 黄灰褐色土ブロック含む 粘性強い
- 4 暗灰褐色土 灰褐色土多量 黒色粒子含む 粘性強い
- 5 灰褐色土 砂質 暗灰褐色土ブロック・黒色粒子含む
- 6 灰褐色土 砂質 露含む

5次SE8



5次SE7

5次SE8



第225図 5次第5・7・8号井戸跡・出土遺物

第107表 5次第5号井戸跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	5	12.3	(9.2)	(2.9)	角閃石・軽石	普通	にぶい・褐色	利根川
2	須恵器	蓋	5			(1.3)	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企
3	須恵器	蓋	10	(16.9)		(2.6)	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企
4	須恵器	坏	10	12.7		(3.5)	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企
5	須恵器	坏	5		7.3	(1.1)	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企
6	須恵器	坏	5		(5.8)	(0.7)	石英・白色針状物質	普通	灰黄褐色	南比企
7	須恵器	高台付碗	5			(1.3)	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企
8	須恵器	瓶	5			(1.3)	石英・白色針状物質	良好	褐色	南比企
9	須恵器	甕	5	21.6		(5.0)	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企

第108表 5次第8号井戸跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎上	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	20		5.1	(1.8)	石英・結晶片岩	普通	灰色	未野

い。掘り方と井戸枠の識別ができない。円形で小型の井戸である。素掘りの井戸である。規模は、長径1.44m、短径1.21m、深さ1.41mである。遺物の出土はなかった。

5次第8号井戸跡 (第225図)

K-4グリッドに位置する。調査区の西側中央に検出した。遺構の重複はない。掘り方と井戸枠の識別ができず、また、円形で小型であり、素掘りの井戸と考えられる。規模は、長径1.41m、短径1.39m、深さ1.26mである。

埋土から須恵器の坏1が出土した。ロクロから糸切り後の調整は行わない。

(5) 溝跡

皿沼西遺跡では、2次調査で1条、3次調査で67条、4次調査で177条、5次調査で118条の古代の溝跡を検出した。溝は、調査区をまたぐため、同一の溝に重複して番号を付けた場合がある。統合すると、1342条の溝跡を検出した。その内訳は、幹線水路8条、枝線水路8条、小溝28条、水溜り溝61条、畝跡の畝間溝10条、そして区画溝1条である。

ここでは、皿沼西遺跡で検出された溝について、**i 幹線水路**、自然河川である大堀川から取水し、調査区内を横切る大型の水路、**ii 枝線水路**、幹線水路から取水し、耕地の随所へ配水した水路、**iii 小溝**、土地の区画や建物の雨落ち、そのほかの目的で掘られた溝で、幹線水路や枝線水路とは直接かかわらない溝、**iv 水溜り溝**、楕円形の土壌から細く長い溝が続く溝、**v 畝間溝**、畝の畝と畝の間に掘られた溝の五つに分類して記述した。

なお、第2・3次調査区では、浅間山B軽石層を除去した下面に現われた遺構（上層遺構）と下の黒色土（旧耕作土）と白色シルト層を除去して現れた淡黄褐色土を確認面とする下層遺構を調査

した。

よって溝跡の平面図と土層断面図は、第2・3次調査区上層遺構（全体剖面図は第227～229図、土層断面図は第230図）と、同下層遺構および第4・5次調査区（全体剖面図は第231図～239図、土層断面図は第240～244図）を掲載した。また平面図には、溝跡の土層断面図、立面図の記録位置を明示した。

土層断面図は、**i 幹線水路**、**ii 枝線水路**、**iii 小溝**の溝跡について掲載し、その他は後述した。溝の記述は、上記分類ごとに行うが、土層断面図は、煩雑を避けるため、発掘調査時の遺構番号順に掲載した。さらに重複して番号を付した遺構は、初出番号を用いた。

i 幹線水路

3次第2号溝跡 (第245図～247図)

3次第79号溝跡、4次第6号溝跡と同一の溝である。3次第79号溝跡は、3次第2号溝跡の下層に検出した。3次第2号溝跡は、西端南部のG-13グリッドから、北端東寄りのU-5グリッドに向かう。自然堤防の縁辺にそって流れる。途中、O-11グリッドで途切れるが、再び、P-10グリッドから始まり、4次第8号溝跡と合流し北へ流れる。

溝の途切れた場所は、土橋状なのか、溝底が高い。C-C'の土層断面では、同一場所で2回の掘り直しを確認できる。なお、最も古い堆積層は、液状化現象で壊れていた。N-12グリッド付近から4次第27号溝跡が並走する。3次第2号溝跡の掘り返しと考えられる。

溝の規模は、西端部のG-13グリッドで幅1.02m、深さ0.13m、溝の途切れるQ-11グリッドで幅0.70m、深さ0.31mである。溝底の標高差は、20.7cmである。

出土物は、3次調査区に集中する。多量の土

器片が出土した。1～43は3次第2号溝跡、44～67・69は3次第79号溝跡、68は4次第6号溝跡、71～78は、3次調査区北壁からの出土として取り上げた。

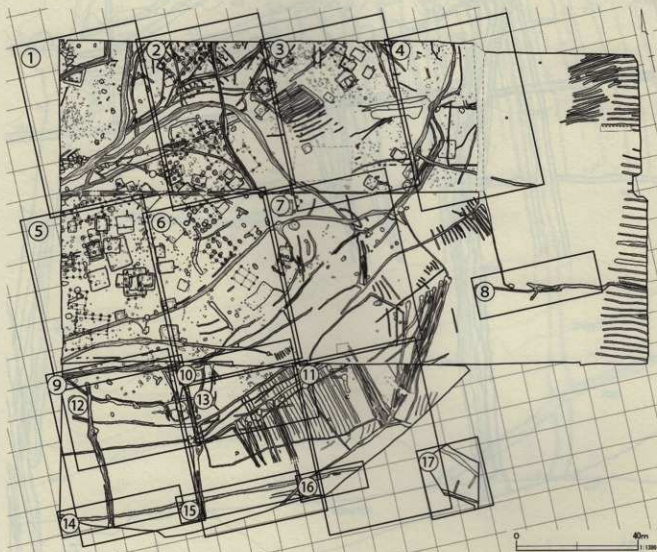
1～13は、土師器の坏である。1～7は、碗形の坏である。8は、平底の坏である。9は、大きく外反する皿形の坏である。10～13は、内面に放射状の暗文を施す。10・11は丸底だが、12は平底である。10・13の暗文は、間隔が細かく、丁寧である。

14～20は、須恵器の蓋である。14・15は、小さなカエリのつく蓋であり、16・17は、鶴頸状の口縁部が作られる。18・19は、ボタン状の摘み

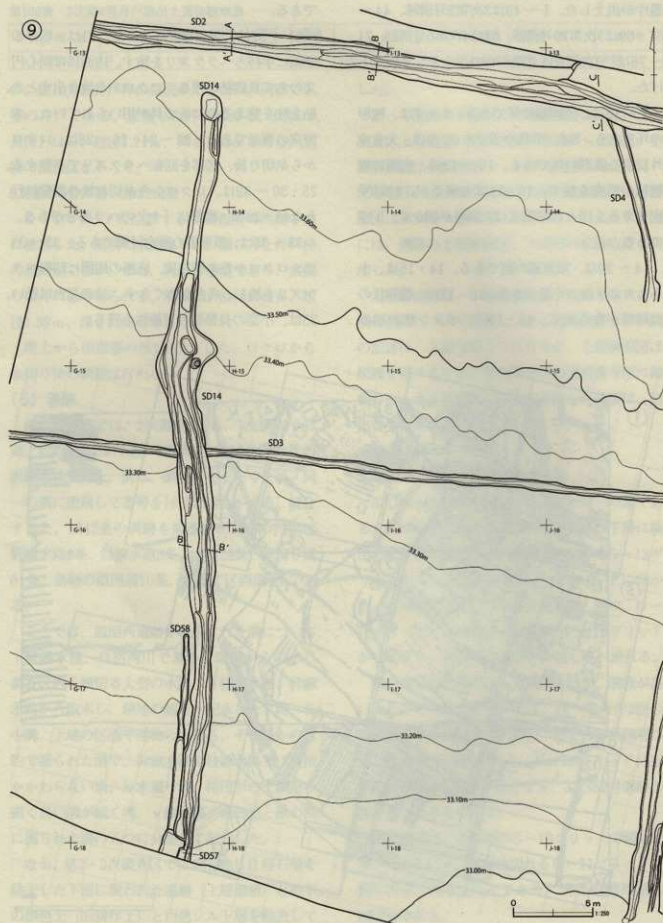
である。

21～32は、須恵器の坏である。21は、底部の全面に手持ちヘラケズリを施す。内面には同心円文のあて具痕跡が残る。ロクロから挽き出すとき、粘土柱を整えるのにあて具が用いられていた。末野窯の製品である。22～24・26～28は、ロクロから糸切り後、底部を回転ヘラケズリで調整する。25・30～32は、ロクロから糸切り後の調整は行わない。26は、底部に「十」のヘラ書きがある。

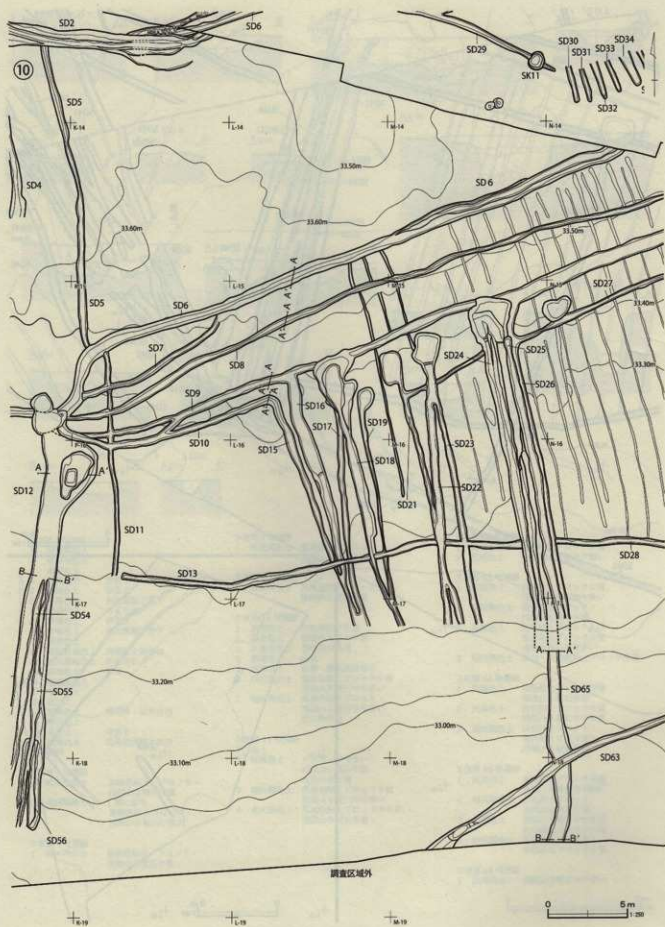
33～35は、須恵器の高台付碗である。33～35は、ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを施し、高台をめぐらす。33の高台は低い。35は、小型の長頸瓶の可能性も残る。



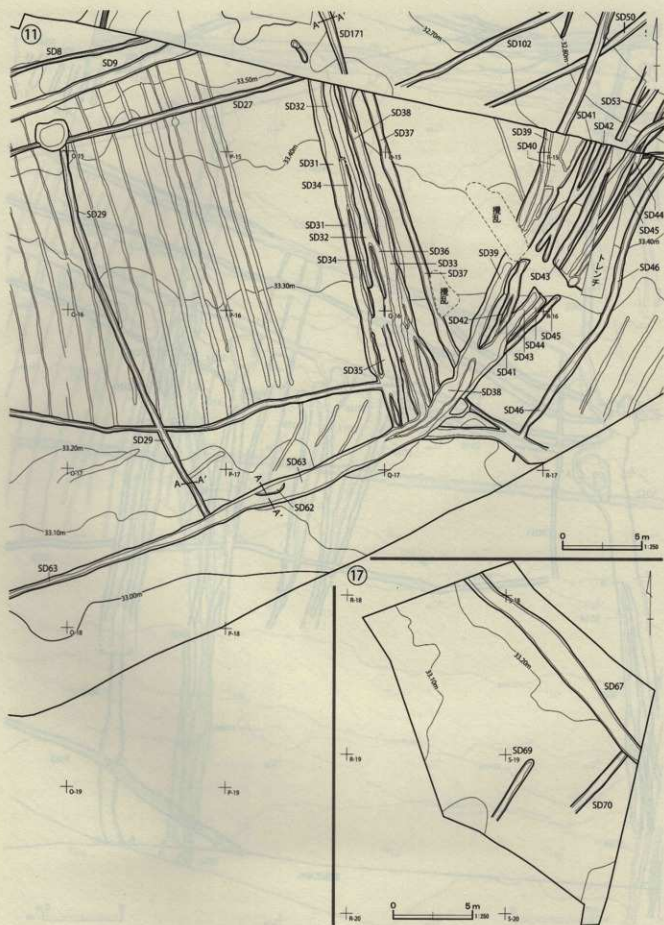
第226図 全体図割図の位置



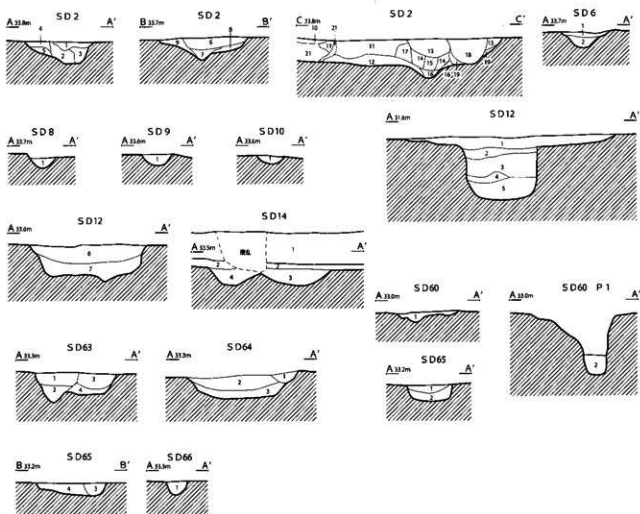
第227图 3次溝跡（上層）(1)



第228図 3次溝跡 (上層) (2)



第229図 3次溝跡（上層）（3）



- 3次第2号溝跡
1 暗黄褐色土
2 暗赤褐色土
3 黒褐色土
4 暗褐色土
5 暗灰色土
6 黒褐色土
7 暗褐色土
8 暗褐色土
9 暗褐色土
10 灰黄色土
11 暗灰黄褐色土
12 暗灰黄褐色土
13 黄褐色土
14 暗黄褐色土
15 暗褐色土
16 褐色土
17 黄褐色土
18 暗灰色土
19 黒色土
20 暗褐色土
21 噴砂

- 3次第6号溝跡
1 暗灰褐色土
2 暗灰褐色土

- 3次第8号溝跡
1 暗灰褐色土

- 3次第9号溝跡
1 暗灰褐色土
黒褐色粘土ブロック・
浅間山B軽石少量
- 3次第10号溝跡
1 暗灰褐色土
黒褐色粘土ブロック・
浅間山B軽石少量
- 3次第12号溝跡
1 白色微粒子多量
2 黒褐色土
3 灰黒褐色土
4 黒褐色土
5 黒褐色土
6 暗灰褐色土
7 暗灰褐色土

- 3次第14号溝跡
1 灰土
2 灰褐色土
マンガンや多い
浅間山A軽石少量
水田の粘土層
3 暗灰褐色土
黒褐色粘土ブロック少量
4 黒灰褐色土
黒褐色粘土ブロックやや多い
浅間山B軽石多量

- 3次第60号溝跡
1 黒褐色土
2 黒褐色土
灰褐色粘土ブロック少量
粘土質 粘性やや強い
- 3次第63号溝跡
1 灰褐色土
2 暗灰褐色土
3 灰褐色土
4 暗灰褐色土
灰褐色粘土ブロック少量
浅間山B軽石やや多い
黒色粘土ブロック・
浅間山B軽石少量
灰褐色粘土ブロック・
黒色粘土ブロック少量
浅間山B軽石やや多い
黒色・灰白色粘土ブロック少量

- 3次第64号溝跡
1 灰褐色土
2 灰褐色土
3 暗灰褐色土
灰褐色粘土ブロック少量
浅間山B軽石多量
灰褐色粘土ブロック少量
浅間山B軽石やや多量
灰褐色粘土ブロック・
黒色粘土ブロック少量
浅間山B軽石少量

- 3次第65号溝跡
1 灰褐色土
2 暗灰褐色土
3 灰褐色土
4 暗灰褐色土
灰褐色粘土ブロック少量
浅間山B軽石やや多
灰褐色粘土ブロック・
浅間山B軽石少量
浅間山B軽石やや多量
灰褐色粘土ブロック少量
灰褐色粘土ブロック・
黒色粘土ブロック少量

- 3次第66号溝跡
1 灰褐色土
浅間山B軽石やや多い

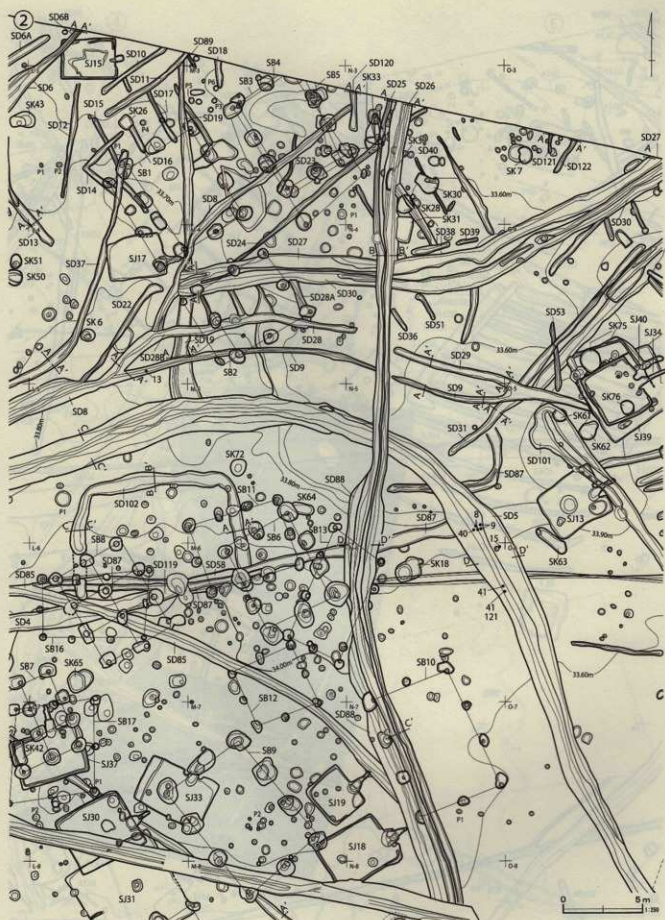


第230図 3次溝跡（上層）土層断面図

①



第231图 全体图测图(1)



第232图 全体图刺图 (2)



第233图 全体图制图 (3)

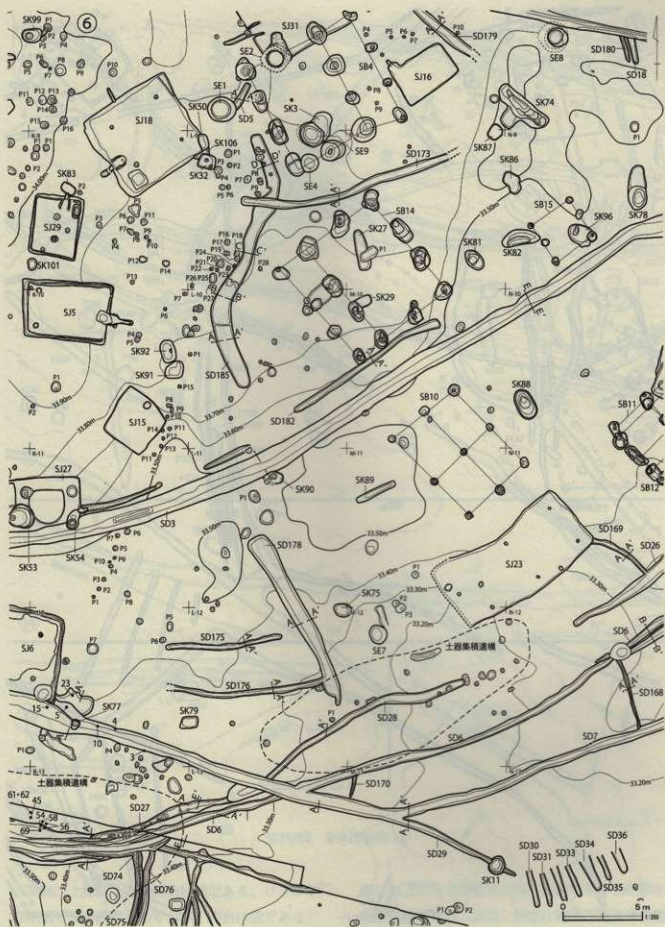


第234图 全体图剖面 (4)

⑤

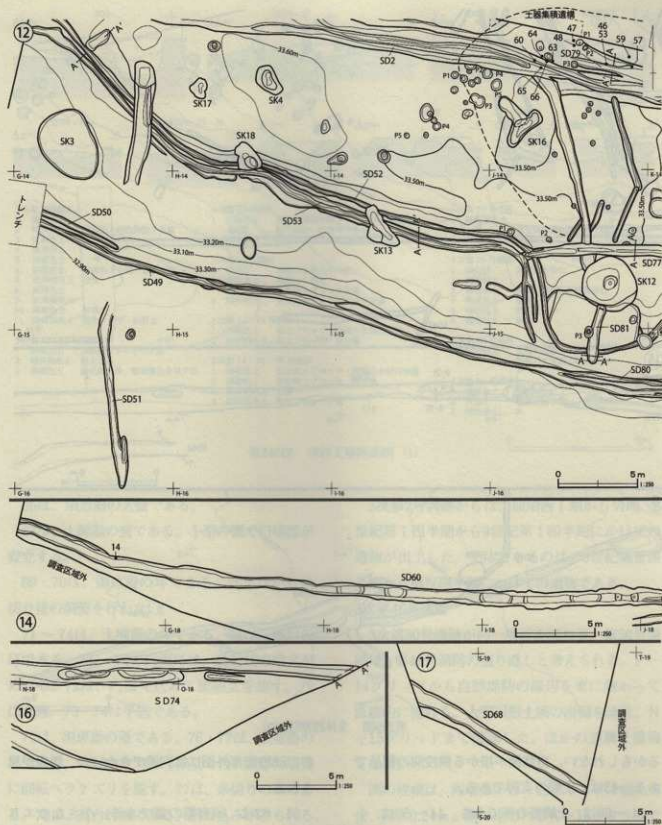


第235图 全体图制图 (5)





第237図 全体図削図 (7)

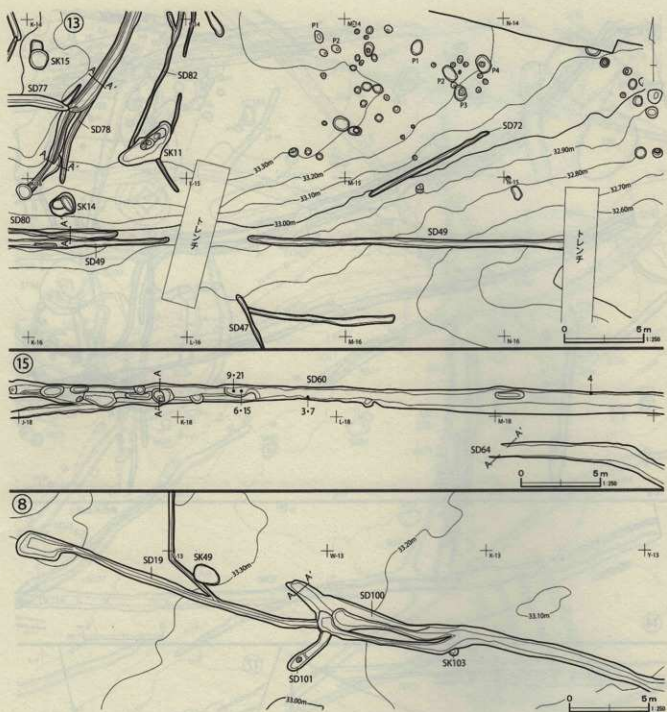


第238図 全体図割図 (8)

36は、土師質土器の高台付碗である。ロクロから糸切り後、高台をめぐらす。高台は歪である。

37～40・42は、須恵器の甕である。37は、内

面に無文の当て具痕が残り、外面に平行線の叩き板の痕跡が残る。41は、肩部に稜線が突出する壺である。長頸壺、もしくは茶入れ形の短頸壺とな



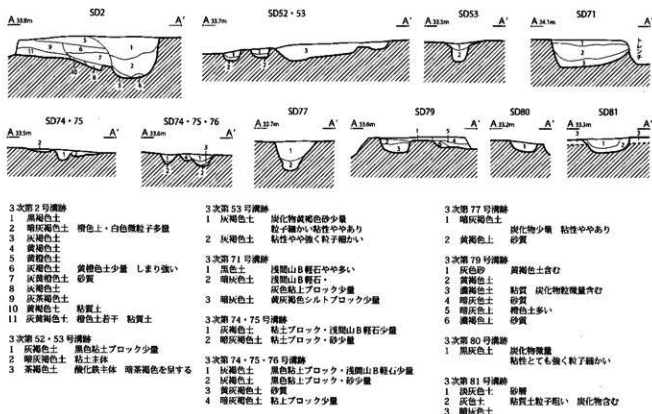
第239図 全体図割図 (9)

るかもしれない。自然釉が掛かる猿投窯の製品である。43は、土製の支脚である。

44～60は、土師器の坏である。44～53は、小振りの碗形の坏である。54は、大きく外反する皿である。55～60は、内面に放射状の暗文を施した暗文土器である。口唇部が小さく外反する。57は、口唇内側に細い沈線状のくぼみがみられる。58のヘラミガキは粗いが、他はとても細かい。な

お、58の底部外面には判読できないが、墨書が見られる。

61・62は、須恵器の蓋である。小さなカエリが見込みの浅いところをめぐる。63～65・69は、須恵器の坏である。63は、ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを施す。64・65・68は、ロクロから糸切り後の調整は行わない。なお、68の底部外面に「美」と墨書されている。



第240図 溝跡土層断面図 (1)



66は、須恵器の大甕である。

67は、土師器の甕である。小型の甕で口縁部が直立する。

69・70は、須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。

71～74は、土師器の坏である。71は、碗形の坏である。72～74の内面には、放射状の暗文がめぐる。72は、内面見込みに螺旋文を施す。72は丸底、73・74は平底である。

75は、須恵器の蓋である。76・77は、須恵器の坏である。76はロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを施す。77は、糸切りのみである。78は、高台付碗である。削り込みがみられる。

79は、須恵器の大甕の胴部破片である。上部が楕円形に割れ、内面の一部に擦れ跡を確認できる。猿面硯の可能性ある。猿面硯は、須恵器の大甕の胴部破片を楕円形に加工し、内面を磨き上げてとらけん陶硯としたいわゆる転用硯である。

3次第2号溝跡からは、皿沼西I期からVI期、8世紀第I四半期から9世紀第I四半期にかけての遺物が出土した。主体となるのは、8世紀第III四半期から第IV四半期にかけての遺物である。

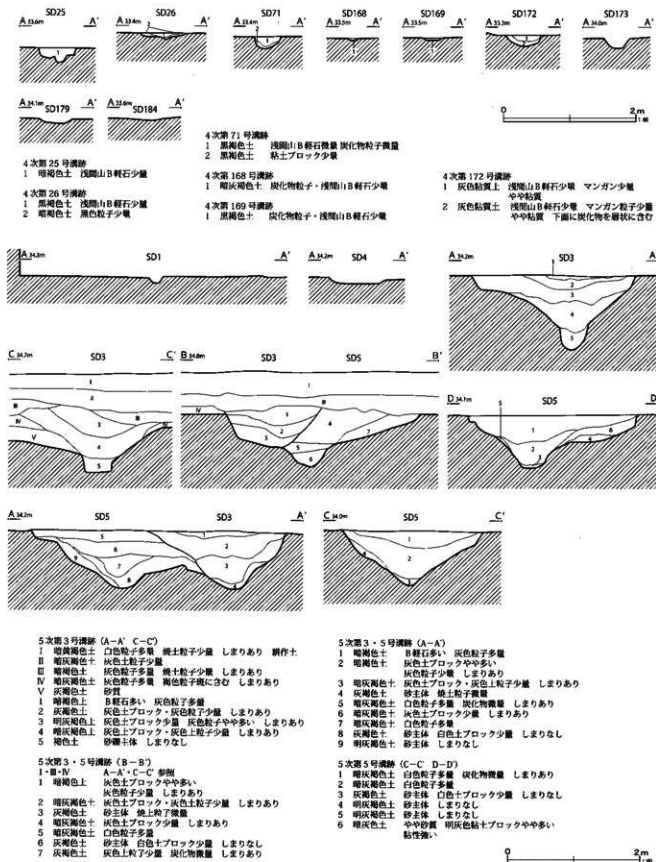
3次第49号溝跡

3次第50号溝跡が同一場所を流れる。第50号溝跡は、第49号溝跡の掘り直しと考えられる。F-14グリッドから自然堤防の縁辺を東に向かって直線的に流れる。大型円形土壌の南側を流れ、N-15グリッドまで確認した。ほかの遺構と重複しない。

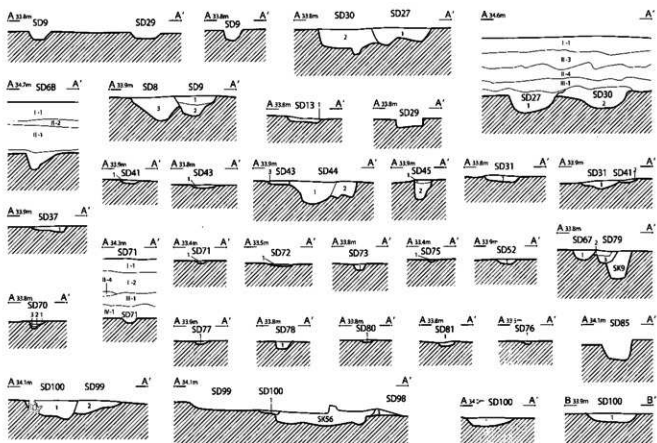
溝の規模は、西端部のG-13グリッドで幅0.36m、深さ0.24m、溝の途切れるN-15グリッドで幅0.54m、深さ0.10mである。溝底の標高差は、25.3cmである。

3次第60号溝跡 (第248図)

3次第74号溝跡が同一場所を流れる。3次第68号溝跡へ続くと考えられる。第74号溝跡は、第60



第242図 溝跡土層断面図 (3)



5次第 27・30号溝跡

- 1-1 暗黄褐色土 白色粒子多量 焼土粒子少量
しまりあり 耕作土
II-3 灰褐色土 白色粒子少量 新作土
II-4 暗灰褐色土 近世のすきこみか
III-1 暗褐色土 灰色粒子多量 焼土粒子少量
しまりあり
1 暗灰褐色土 黄色土粒子少量 しまり・粘性あり
2 暗褐色土 砂質 黄色土粒子やや多い

5次第 6号溝跡

- 1-1 暗黄褐色土 白色粒子多量 焼土粒子少量
しまりあり 耕作土
II-1 暗灰褐色土 灰色土粒子少量
II-2 暗褐色土 白色粒子やや多量
灰色土ブロック
やや多量 しまりあり 耕作土

5次第 8・9号溝跡

- 1 黄褐色土 白色粒子多量
しまりあり
2 灰褐色土 黄色土ブロック少量
しまり・粘性あり
3 灰褐色土 白色粒子多量 しまり・粘性あり

5次第 13号溝跡

- 1 暗灰褐色土 灰色粒子やや多い
しまりあり

5次第 31・41号溝跡

- 1 暗灰褐色土 灰色土ブロック
やや多い
炭化物塊 しまり・粘性あり
2 灰褐色土 灰色土ブロック少量
しまり・粘性あり

5次第 37号溝跡

- 1 黄褐色土 砂質 黄色土粒子少量 炭化物塊
しまりあり

5次第 41号溝跡

- 1 暗灰褐色土 灰色土ブロック
やや多い 灰色土粒子少量
しまり・粘性あり

5次第 43号溝跡

- 1 灰褐色土 灰色土ブロックやや多い
炭化物塊 しまりあり

5次第 43・44号溝跡

- 1 暗灰褐色土 白色粒子多量 黄色土ブロック
やや多い しまりあり
2 暗灰褐色土 白色粒子多量 黄色土ブロック
少量 しまりあり
3 暗褐色土 白色粒子少量 しまりあり

5次第 45号溝跡

- 1 灰褐色土 灰色土ブロック・
灰色土粒子多量 しまり・粘性あり
2 暗灰褐色土 灰色土ブロック少量
しまり・粘性あり

5次第 52号溝跡

- 1 暗褐色土 灰色土ブロック多量
しまり・粘性あり

5次第 67・79号溝跡

- 1 暗灰褐色土 灰色土ブロック・
灰色土粒子やや多い
しまり・粘性あり
2 灰褐色土 白色粒子少量
3 灰褐色土 白色粒子少量

5次第 70号溝跡

- 1 暗灰褐色土 灰色土ブロック少量
しまり・粘性あり
2 灰褐色土 灰色土ブロック少量
しまり・粘性あり
3 灰褐色土 灰色土粒子少量 しまりあり

5次第 71号溝跡

- 1-1 暗黄褐色土 白色粒子多量 焼土粒子少量
しまりあり 耕作土
II-2 黄褐色土 黄色土ブロック多量 近世のすきこみか
II-4 暗褐色土 灰色粒子多量 焼土粒子少量
しまりあり
K-1 暗灰褐色土 灰色粒子多量 褐色粒子泥に含む
しまりあり
1 暗灰褐色土 灰色土粒子少量
しまり・粘性あり

5次第 72号溝跡

- 1 灰褐色土 灰色土ブロック多量
粘性・しまりあり

5次第 73号溝跡

- 1 暗褐色土 灰色土ブロック・灰色土粒子少量
しまり・粘性あり
5次第 75号溝跡
1 灰褐色土 灰色土粒子少量 しまり・粘性あり

5次第 76号溝跡

- 1 暗褐色土 黄色土粒子少量
しまり・粘性あり

5次第 77号溝跡

- 1 暗灰褐色土 灰色土ブロック少量
しまり・粘性あり

5次第 78号溝跡

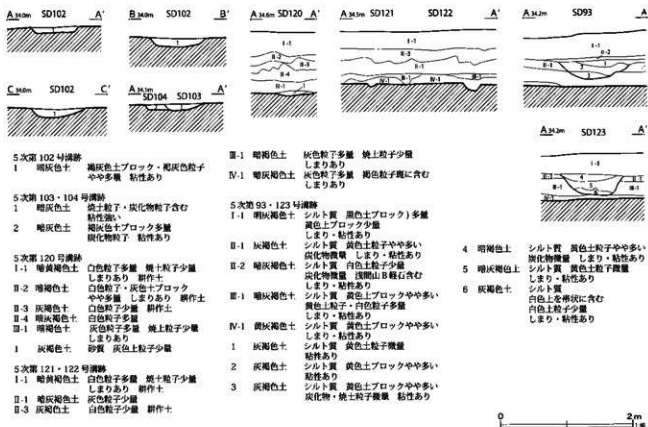
- 1 灰褐色土 灰色土ブロック多量
灰色土粒子少量 しまりあり
5次第 81号溝跡
1 灰褐色土 灰色土ブロックやや多い

5次第 98・99・100号溝跡

- 1 暗灰褐色土 暗灰褐色土ブロック多い
2 暗灰褐色土 黄色土・砂質 褐色土ブロック多量
白色粒子含む
3 黄褐色土 ブロック多量



第243図 溝跡土層断面図 (4)



第244図 溝跡土層断面図 (5)

号溝跡の掘り返しである。調査区西南端のF-17グリッドから東へ向かって直線的に流れる。S-19グリッドまで確認した。

溝の規模は、西端部のF-17グリッドで幅0.80m、深さ0.18m、東端部のS-19グリッドで幅0.90m、深さ0.32mである。溝底の標高差は、14cmである。

当初は、条里型地割にかかわる坪境の溝、または幹線水路と考えた。しかし、大堰川と並行し、調査区西端部や中央南端部で湾曲することから、条里型地割ではないと判断した。H-17グリッドからK-17グリッドにかけての溝底は、細長い上城が連続したように掘られていた。掘削または浚渫の作業単位と考えたい。

遺物は、溝の底に貼り付くように出土した。1～13は、土師器の坏である。1～9は、碗形の坏、10は口縁部が大きく外反する皿形の坏である。11は、内面に放射状の暗文を施す。平底の暗文土

器である。12は、体部内面に放射状の暗文、底部内面に螺旋状の暗文を施す碗形の土器である。口唇部内面には、細い沈線がめぐる。外面は、細かいヘラケズリの後、横方向の丁寧なミガキを施す。13は、半球形の坏である。内面に暗文を施さないが、放射状の暗文を施す土器の系譜をひく。

14は、須恵器の蓋である。ボタン状の握みがつく。口唇部は鵝頸状に伸びる。

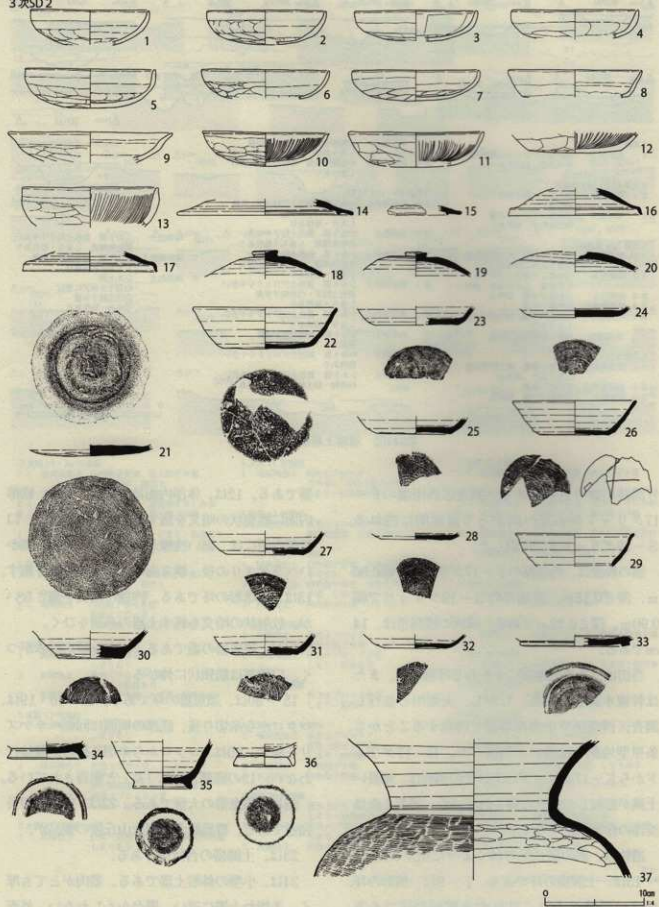
15～20は、須恵器の坏である。15・16・19は、ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを施す。20は、ロクロから糸切り後の調整は行わない。19の底部外面に「益」と墨書されている。

21は、須恵器の大甕である。22は、須恵器の長頸甕である。群馬県太田市金山丘陵の製品か。

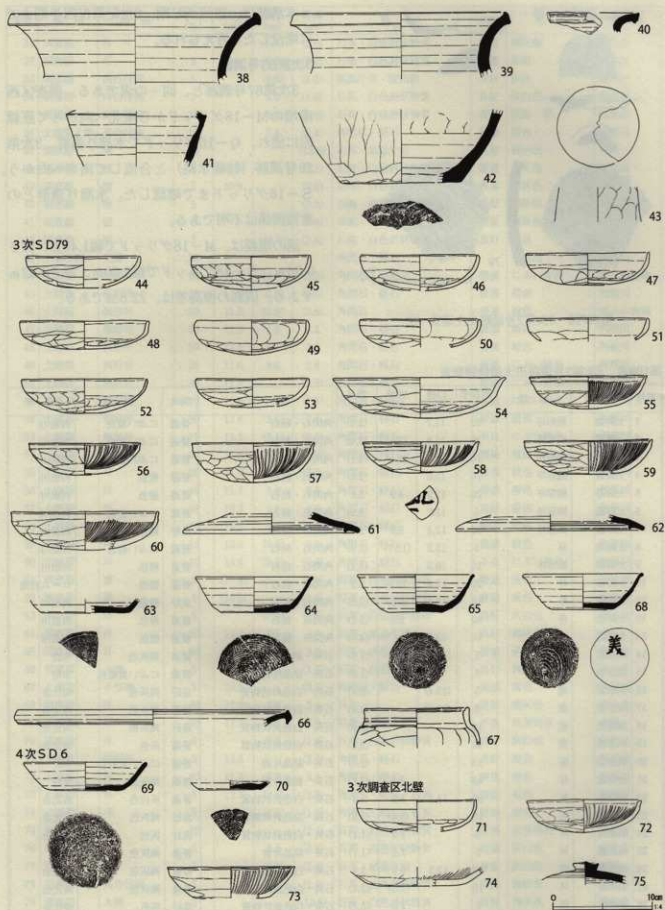
23は、土師器の台付甕である。

24は、小型の鉢形土器である。器肉がとても厚く、手捏ね土器に近い。器台かもしれない。外面は粗くヘラケズリを施す。

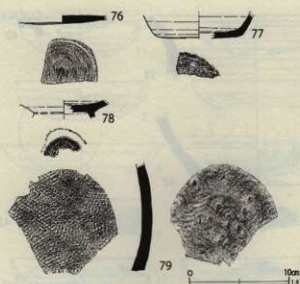
3次SD2



第245图 3次第2号清跡出土遺物 (1)



第246図 3次第2号溝跡出土遺物 (2)



第247図 3次第2号溝跡出土遺物 (3)

本溝跡は、皿沼西V期、8世紀第IV四半期までに埋没したと考えられる。

3次第63号溝跡

3次第67号溝跡と、同一の溝である。調査区西南端のM-18グリッドから東北へ向かって直線的に流れ、Q-16グリッドで水溜り溝群、3次第28号溝跡(枝線水路)と合流して南東へ向かう。S-18グリッドまで確認した。水溜り溝群との重複関係は不明である。

溝の規模は、M-18グリッドで幅1.40m、深さ0.36m、S-18グリッドで幅0.60m、深さ0.32mである。溝底の標高差は、22.8cmである。

第109表 3次第2号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	碗形坏	20	11.7		(3.5)	角閃石・軽石	普通	にぶい橙色	利根川
2	土師器	碗形坏	20	11.8	(3.6)	(3.4)	角閃石・軽石	普通	にぶい橙色	利根川
3	土師器	碗形坏	10	12.1	(4.1)	(3.1)	角閃石・軽石	普通	にぶい橙色	利根川
4	土師器	碗形坏	10	12.6		(2.8)	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
5	土師器	碗形坏	20	12.9	4.9	3.8	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
6	土師器	碗形坏	5	12.7		(2.9)	角閃石・軽石	普通	にぶい橙色	利根川
7	土師器	碗形坏	90	12.4	3.9	3.0	角閃石・軽石	良好	橙色	利根川
8	土師器	坏	5	13.2	(10.7)	(2.8)	角閃石・軽石	普通	にぶい橙色	利根川
9	土師器	皿形坏	10	16.3		(3.1)	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
10	土師器	坏	20	12.6	10.0	3.3	角閃石・鉄粒子	普通	橙色	ローム台地
11	土師器	坏	10	13.3	(6.6)	(3.5)	角閃石・軽石	良好	橙色	利根川
12	土師器	坏	20		9.3	(2.1)	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
13	土師器	坏	10	13.5		(4.0)	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
14	須恵器	蓋	5	(17.4)		(1.6)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
15	須恵器	蓋	5			(1.0)	石英・結晶片岩	普通	にぶい黄橙色	末野
16	須恵器	蓋	5	(13.4)		(2.7)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
17	須恵器	蓋	5	(13.3)		(2.0)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
18	須恵器	蓋	10			(2.8)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
19	須恵器	蓋	40			(2.5)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
20	須恵器	蓋	10			(2.0)	石英・結晶片岩	普通	にぶい黄橙色	末野
21	須恵器	坏	40		9.4	(1.1)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
22	須恵器	坏	90	14.3	8.2	4.1	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
23	須恵器	坏	10		(8.4)	(1.9)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
24	須恵器	坏	5		7.4	(1.1)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
25	須恵器	坏	5		7.2	(1.7)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
26	須恵器	坏	20	12.3	6.9	3.4	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
27	須恵器	坏	10		(7.5)	(2.4)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
28	須恵器	坏	5		7.0	(0.7)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
29	須恵器	坏	10	11.8		(3.3)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
30	須恵器	坏	20		(6.3)	(3.0)	石英・白色針状物質	良好	灰白色	南比企

番号	種 別	器 種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	焼成	色 調	備 考
31	須恵器	坏	20		(6.3)	(2.0)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比金
32	須恵器	坏	5		6.0	(1.4)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比金
33	須恵器	高台付碗	5		(9.6)	(1.1)	結晶片岩・安山岩	良好	灰色	藤岡か
34	須恵器	高台付碗	5		7.0	(1.8)	石英・白色針状物質	良好	灰白色	南比金
35	須恵器	高台付碗	20		5.6	(5.0)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比金
36	土師器十器	高台付碗	10		5.4	(2.4)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
37	須恵器	甕	10		(13.9)		石英・結晶片岩	良好	褐灰色	末野
38	須恵器	甕	5	24.2		(7.1)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比金
39	須恵器	甕	5	20.9		(6.5)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比金
40	須恵器	甕	5		(2.0)		石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比金
41	須恵器	壺	5		(5.6)		石英	普通	褐灰色	猿投
42	須恵器	甕	5		(11.9)	(7.4)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比金
43	土製支脚	支脚	30				角閃石・軽石		灰白色	利根川
44	土師器	碗形坏	20	11.2	(4.2)	(3.2)	角閃石・鉄粒子	普通	にぶい・褐色	ローム台地
45	土師器	碗形坏	20	11.8	(6.0)	(3.4)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
46	土師器	碗形坏	20	11.5	(3.5)	(3.6)	角閃石	普通	褐色	ローム台地
47	土師器	碗形坏	50	12.3	4.6	3.2	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
48	土師器	碗形坏	50	12.8	5.4	2.8	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
49	土師器	碗形坏	30	11.0	8.6	3.5	角閃石・軽石	普通	にぶい・褐色	利根川
50	土師器	碗形坏	20	11.9		(2.9)	角閃石・軽石	普通	にぶい・褐色	利根川
51	土師器	碗形坏	10	11.9		(2.3)	角閃石・軽石	普通	にぶい・褐色	利根川
52	土師器	碗形坏	20	12.6	3.0	3.4	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
53	土師器	碗形坏	10	11.1	(5.1)	(2.9)	角閃石・軽石	不良	にぶい・褐色	利根川
54	土師器	皿形坏	60	17.0	6.5	4.0	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
55	土師器	坏	20	11.7	6.8	3.2	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
56	土師器	坏	40	11.1	5.0	3.2	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
57	土師器	坏	50	12.3	4.8	4.0	角閃石・軽石	良好	褐色	利根川
58	土師器	坏	20	11.5	4.1	3.6	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
59	土師器	坏	10	12.8	(6.2)	3.4	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
60	土師器	坏	10	14.6	(5.5)	(3.8)	角閃石・軽石	不良	にぶい・褐色	利根川
61	須恵器	蓋	5	(17.4)		(2.1)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比金
62	須恵器	蓋	5	(18.6)		(1.6)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比金
63	須恵器	坏	5		(8.6)	(1.5)	石英・白色針状物質	良好	灰白色	南比金
64	須恵器	坏	20	11.4	6.7	3.6	石英・結晶片岩	良好	褐灰色	末野
65	須恵器	坏	60	11.5	5.4	3.8	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比金
66	須恵器	大甕	5	27.1		(1.7)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比金
67	土師器	小型甕	5	10.2		(3.7)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
68	須恵器	坏	80	12.7	6.0	3.6	石英	良好	褐灰色	南比金
69	須恵器	坏	50	12.2	6.8	2.9	石英・結晶片岩	不良	灰黄褐色	末野
70	須恵器	坏	5		6.2	(1.0)	石英・白色針状物質	良好	灰白色	南比金
71	土師器	碗形坏	5	12.8		(3.2)	角閃石・軽石	良好	褐色	利根川
72	土師器	坏	80	11.3	9.2	3.3	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
73	土師器	坏	5	12.7	(7.9)	(3.2)	角閃石・軽石・石英	普通	褐色	利根川
74	土師器	坏	5		(6.9)	(1.9)	角閃石・軽石・石英	普通	褐色	利根川
75	須恵器	蓋	10		(2.4)		石英・白色針状物質	普通	灰黄褐色	南比金
76	須恵器	坏	5		5.2	(0.8)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比金
77	須恵器	坏	5		(7.5)	(2.8)	石英・結晶片岩	普通	灰白色	末野
78	須恵器	高台付碗	5			(1.9)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比金
79	須恵器	大甕	5			(10.8)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比金

第110表 3次第60号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	碗形坏	50	13.2	5.3	3.3	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
2	土師器	碗形坏	20	13.2	(6.8)	(3.1)	角閃石・軽石	不良	橙色	利根川
3	土師器	碗形坏	20	13.0	4.2	3.2	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
4	土師器	碗形坏	40	12.8	6.6	3.4	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
5	土師器	碗形坏	10	12.3		(2.4)	角閃石・軽石	普通	にぶい橙色	利根川
6	土師器	碗形坏	20	12.5	11.0	3.1	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
7	土師器	碗形坏	10	13.2		(2.9)	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
8	土師器	碗形坏	50	13.9	4.7	3.3	角閃石・軽石	良好	橙色	利根川
9	土師器	碗形坏	90	12.5	6.2	3.0	角閃石・軽石	普通	にぶい橙色	利根川
10	土師器	皿形坏	10	15.2		(2.5)	角閃石・軽石	不良	橙色	利根川
11	土師器	坏	50	12.9	9.1	3.5	角閃石・軽石	良好	橙色	利根川
12	土師器	碗形坏	80	15.9	8.1	4.6	角閃石・軽石	良好	にぶい橙色	利根川
13	土師器	半球形坏	50	13.7	9.8	(4.3)	角閃石・軽石	普通	にぶい橙色	利根川
14	須恵器	蓋	90	12.2		3.2	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
15	須恵器	坏	90	13.6	7.0	3.8	石英・白色針状物質	良好	にぶい赤褐色	南比企
16	須恵器	坏	90	12.4	6.7	3.8	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
17	須恵器	坏	10	14.8		(3.7)	石英・白色針状物質	良好	灰白色	南比企
18	須恵器	坏	10	16.8		(4.4)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
19	須恵器	坏	5		(6.6)	(1.7)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
20	須恵器	坏	5		(6.7)	(1.3)	石英・結晶片岩	普通	灰白色	末野
21	須恵器	大甕	5			(14.1)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
22	須恵器	長頸壺	5	11.0		(5.2)	石英・頁岩	普通	灰色	秋間・太田
23	土師器	台付甕	5			(3.6)	角閃石・結晶片岩	良好	にぶい褐色	小山川
24	土師器	小型鉢	10	8.7	(5.3)	(3.7)	角閃石・軽石	良好	浅黄褐色	利根川

4次第4号溝跡 (第249図)

調査区の南側を東に向かって流れる。G-12グリッドから東に向かい、N-12グリッドで途切れる。北へやや湾曲しながら流れる。4次第1号掘立柱建物跡、第6号住居跡、第6号溝跡、第11号土坑と重複し、それより古い。

溝の規模は、西端部のF-17グリッドで幅0.56m、深さ0.19m、東端部のS-19グリッドで幅1.18m、深さ0.64mである。溝底の標高差は、21.2cmである。

遺物は、溝の埋土中から出土した。1～14・19・20は、土師器の坏である。1・4は、須恵器坏蓋模倣坏である。2・3は、有段口縁坏である。3の内面には、細かな放射状の暗文を施す。本来、有段口縁坏の内面には、暗文を施さない。また3は、口唇部内側に細い沈線もめぐる。有段口縁坏に暗文土器の技法を取り入れた稀有な土器である。

5・6は、深めの内屈口縁坏である。7～12は、内面に細かな放射状の暗文を施す。口唇部が小さく外反する。13・14は、碗形の坏である。本来、暗文を施す器形の土器である。

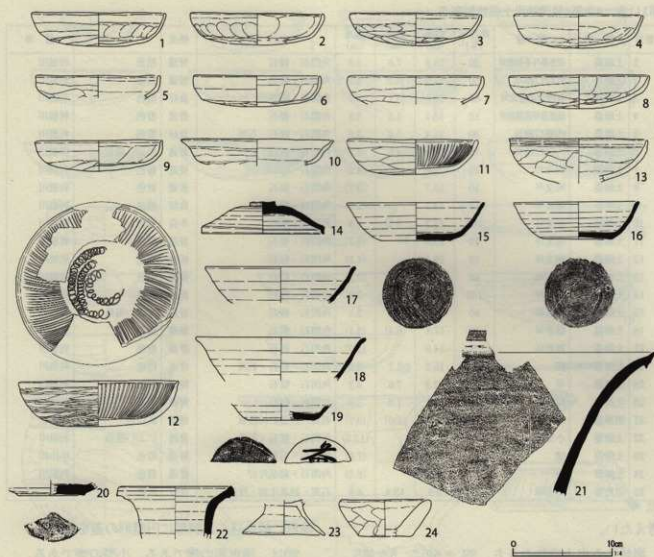
15～17は皿形の土器である。15の底部は、器肉がととても厚い。15・16は、本来、内面に放射状の暗文を施す土器である。

18は、土師器の碗である。深めで大振りの碗。

21は、須恵器の坏である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを施す。

22・23は、土師器の甕である。22は、小型の甕である。頸部から口縁部にかけて大きく剥落する。24は、広口の壺である。

25は、須恵器の円面甕である。破片は、脚部のみである。上位凸帯より上部は、同時期の資料をもとに復元した。六方に長方形の透し穴があり、その間に三本のタケキザミを施す。低位突帯は無



第248図 3次第60号溝跡出土遺物

く、大きく「ハ」の字に脚部が開く。

本遺構は、皿沼西遺跡の集落の始まる第Ⅰ期より先行した土器群（7世紀末～8世紀初頭）から皿沼西Ⅱ期（8世紀第Ⅰ期四半期後半～第Ⅱ四半期前半）までみられる。集落の開始にあたってまず、掘削された溝と考えたい。

5次第3号溝跡（第250・251図）

調査区の北西部を西辺から北辺に向かって流れた。H-6グリッドから北東に向かい、J-5グリッドで北へ折れ、そのまま北流した。幅広で深い大型の幹線水路である。5次第5号溝跡と重複し、同溝跡より新しい。同溝跡の掘り替えと考えた。また、5次第5号溝跡と並走する5次第9号溝跡が、

第5号溝跡の枝線水路とすると、これより新しい。なお、5次第37号溝跡が、本溝跡と並走することから同時期の溝と考えられる。

溝は、「V」字形に掘られ、溝幅に対して溝底は狭い。粘性の強い粒子の細かい土が、溝内を埋めていた。遺構確認面から1mほどで、壁面は砂層となる。溝の規模は、西端部のH-6グリッドで幅2.10m、深さ0.76m、北端部のK-2グリッドで幅1.44m、深さ0.68mである。溝底の標高差は、21.7cmである。

H-6グリッドからJ-5グリッド付近に土器が、まとまって出土した。溝底から出土した土器は少ない。溝の埋没が進んだ段階に捨てられたと

第111表 4次第4号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	須恵器坏蓋模倣環	20	10.8	7.6	3.3	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
2	土師器	有段口縁環	50	11.9	6.2	4.3	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
3	土師器	有段口縁暗文環	60	12.5	3.1	3.7	角閃石・軽石	良好	棕色	利根川
4	土師器	須恵器坏蓋模倣環	10	13.7	4.2	3.5	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
5	土師器	内眼口縁環	90	11.4	3.4	3.5	角閃石・軽石・石英	良好	棕色	利根川
6	土師器	内眼口縁環	10	10.9	4.8	3.1	角閃石・軽石	普通	にぶい・棕色	利根川
7	土師器	暗文環	10	12.8		(4.2)	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
8	土師器	暗文環	10	13.7		(3.7)	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
9	土師器	暗文環	10	13.1		(3.6)	角閃石・軽石	良好	棕色	利根川
10	土師器	暗文環	100	13.3	5.1	3.8	角閃石・軽石	不良	棕色	利根川
11	土師器	暗文環	10	13.8		(3.7)	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
12	土師器	暗文環	20	15.1		(4.2)	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
13	土師器	碗形環	40	11.1		(3.8)	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
14	土師器	碗形環	100	12.4	7.0	3.9	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
15	土師器	皿形環	80	18.4	8.5	3.1	角閃石・軽石	普通	にぶい・褐色	利根川
16	土師器	皿形環	10	17.1	(6.4)	(3.1)	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
17	土師器	皿形環	5	14.9		(3.3)	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
18	土師器	碗	80	15.2	3.7	5.2	角閃石・軽石・石英	普通	棕色	利根川
19	土師器	環	20	12.8	7.6	4.2	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
20	土師器	環	60	13.1	7.0	3.9	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
21	須恵器	環	5		(8.0)	(0.7)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
22	土師器	小壺	20	16.2		(12.5)	角閃石・軽石・石英	普通	にぶい・棕色	利根川
23	土師器	壺	5	19.0		(7.9)	角閃石・石英・結晶片岩	普通	棕色	小山川
24	土師器	壺	5	25.2		(6.2)	角閃石・結晶片岩	普通	棕色	利根川
25	須恵器	円面鏡	10	9.9	13.9	4.9	石英・結晶片岩・片岩	良好	灰色	木野

考えたい。

掲載した出土遺物のうち、32～62は、5次第5号溝跡と重複する地点から出土した。

1～4は、須恵器の坏である。1は手持ちヘラケズリが施される。2は、ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを施す。3・4は、ロクロから糸切り後の調整を行わない。5～7は、須恵器の高台付碗である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に台形状の高台をめぐらす。とくに6の高台端部は、外端接地である。

8～10は、土師質土器の坏である。8・10は、ロクロから糸切り後の調整を行わない。11～15は、土師質土器の高台付碗である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に高台をめぐらす。16・17は、土師質土器の高脚高台付碗である。

18は、灰釉陶器の長頸瓶である。猿投窯の製品である。19は、須恵器のフラスコ型土器である。

球形に絞り込んだ胴部に円盤形の蓋を被せる。

20は、須恵器の壺である。小型の壺である。

21は、灰釉陶器の手付長頸瓶である。遠江^{じやとう}の製品である。把手は、粘土紐を貼りつけた簡素な形態である。

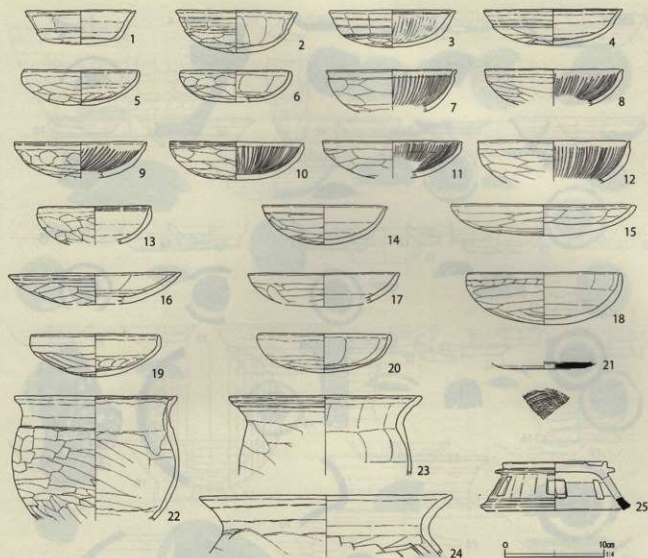
22は、灰釉陶器の壺である。外面に平行線文の叩き板で叩いた痕跡が残る。外面に厚く灰釉が掛けられる。短頸壺では頸部径が小さいため、長頸壺と考えたい。

23は、須恵器の甗である。胴部上半に凸帯がめぐる。24は、須恵器の羽釜^{はなづか}である。

25～27は、土師器の壺である。器壁の厚い壺で外面を粗くヘラケズリする。28は、土師器の台付壺の脚部である。

29は、須恵器の鉢である。胴部上半に叩き板の平行線文の痕跡が残る。

30は、須恵器の壺である。胴部下半から底部に



第249図 4次第4号溝跡出土遺物

かけての破片である。

31は、カマドの土製支脚である。

32～39は、須恵器の坏である。32・38は、ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを施す。33～37・39は、ロクロから糸切り後の調整を行わない。

40～45は、土師質土器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。46～55は、土師質土器の高台付碗である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に高台をめぐらす。52～55は、土師質土器である。高台を欠損する。51は、土師質土器の高脚高台付碗である。ロクロから糸切り後、

底部の周囲に高脚の高台をめぐらす。

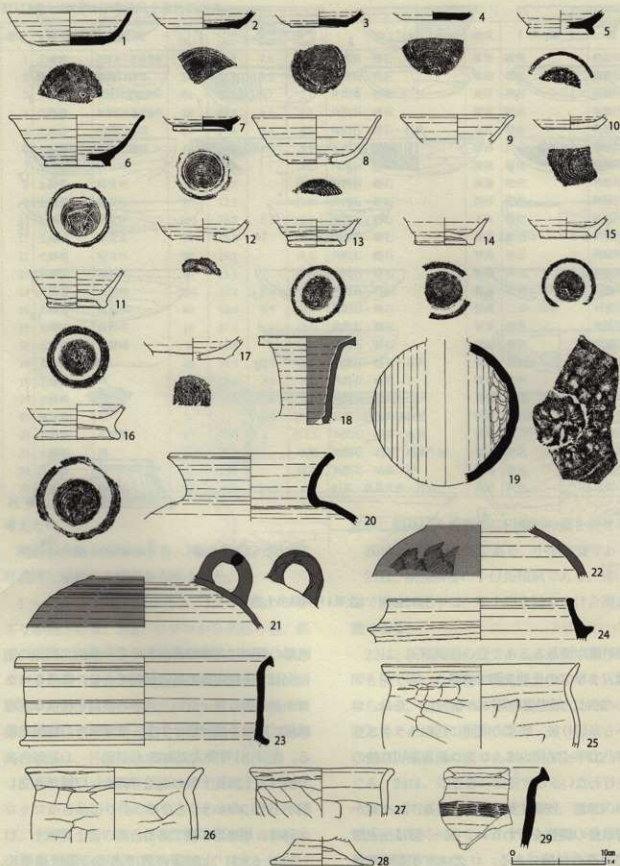
56は、灰釉陶器の高台付皿である。底部をロクロから糸切り後、低い三角形の高台を付ける。口縁部に灰釉を漬け掛ける。東濃地方の製品である。虎溪山Ⅰ号窯式である。

57は、土師質土器の羽釜である。口縁が直立し羽が上部に向かう。

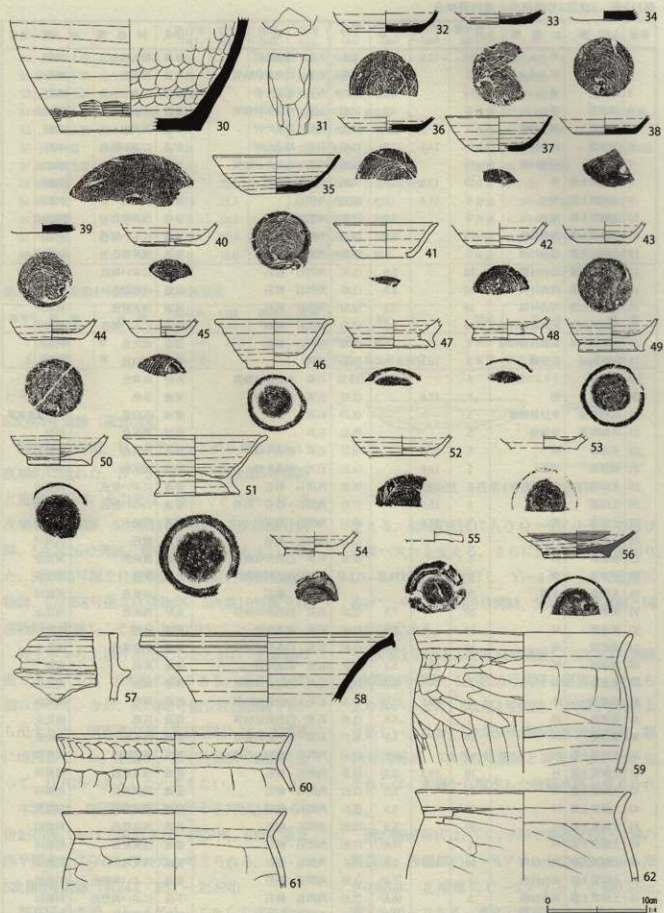
58は、須恵器の甕である。

59～62は、土師器の甕である。器壁は厚く、外面を粗く削る。口縁部は、「く」の字である。

本遺構は、皿沼西X期、10世紀Ⅱ～Ⅲ四半期の集落編成に伴って、10世紀の前葉に開削された



第250图 5次第3号清跡出土遺物 (1)



第251图 5次第3号溝跡出土遺物 (2)

第112表 5次第3号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	20	13.0	7.0	3.5	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
2	須恵器	坏	5		(7.7)	(1.9)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
3	須恵器	坏	10		5.9	(1.8)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
4	須恵器	坏	5		6.2	(0.8)	石英・白色針状物質	良好	灰白色	南比企
5	須恵器	高台付椀	5		(6.8)	(2.6)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
6	須恵器	高台付椀	20	14.1	(7.0)	(5.4)	石英・結晶片岩	普通	にぶい褐色	末野
7	須恵器	高台付椀	10		6.0	(1.6)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
8	土師質土器	坏	10	13.5	(6.0)	(5.2)	角閃石・軽石	普通	にぶい褐色	利根川
9	土師質土器	坏	5	11.8		(3.1)	角閃石	普通	灰白色	利根川
10	土師質土器	坏	5		5.8	(1.5)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
11	土師質土器	高台付椀	60		(4.1)	(4.1)	角閃石・軽石	普通	にぶい褐色	利根川
12	土師質土器	高台付椀	5			(2.5)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
13	土師質土器	高台付椀	10		5.9	(2.9)	角閃石・軽石	普通	にぶい褐色	利根川
14	土師質土器	高台付椀	10		5.8	(2.9)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
15	土師質土器	高台付椀	10		5.5	(2.3)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
16	土師質土器	高脚高台付椀	20		8.5	(3.7)	角閃石・軽石	普通	にぶい褐色	利根川
17	土師質土器	高脚高台付椀	5			(2.4)	角閃石・軽石	普通	褐灰色	利根川
18	灰輪陶器	長頸瓶	5	10.1		(9.4)	石英	普通	灰白色	狭役
19	須恵器	フラスコ型土器	5			(15.3)	石英・白色針状物質	良好	灰黄色	南比企
20	須恵器	甕	5	17.0		(7.5)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
21	灰輪陶器	手付長頸瓶	5			(8.6)	石英	普通	灰白色	東海地方東部
22	灰輪陶器	長頸甕	5			(5.6)	石英	良好	黄灰色	狭役
23	須恵器	瓶	5	27.0		(9.5)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
24	須恵器	羽釜	5	19.8		(4.6)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
25	土師器	甕	5	20.9		(9.0)	角閃石・軽石	普通	にぶい褐色	利根川
26	土師器	甕	5	18.5		(7.7)	角閃石・軽石・石英	普通	にぶい褐色	利根川
27	土師器	甕	5	14.9		(5.1)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
28	土師器	台付甕	5			(3.1)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
29	須恵器	鉢	5		(8.8)		石英・白色針状物質	普通	黄灰色	南比企
30	須恵器	甕	5		(14.0)	(11.5)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
31	土製品	支脚	30				角閃石・軽石		淡黄色	利根川
32	須恵器	坏	20		7.1	(2.3)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
33	須恵器	坏	10		6.2	(1.4)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
34	須恵器	坏	10		6.0	(1.0)	石英・白色針状物質	普通	明赤褐色	南比企
35	須恵器	坏	50	12.5	5.4	3.9	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
36	須恵器	坏	5		(6.3)	(1.5)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
37	須恵器	坏	5	10.5	(5.0)	(3.5)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
38	須恵器	坏	5		5.8	(1.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
39	須恵器	坏	10		5.7	(0.7)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
40	土師質土器	坏	10		(6.0)	(2.4)	角閃石・軽石・石英	普通	浅黄褐色	利根川
41	土師質土器	坏	10	10.3	(5.2)	(3.5)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
42	土師質土器	坏	10		5.3	(2.6)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
43	土師質土器	坏	20		5.5	(2.0)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
44	土師質土器	坏	20		5.6	(2.2)	角閃石・軽石	普通	淡赤褐色	利根川
45	土師質土器	坏	5		(4.6)	(1.8)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
46	土師質土器	高台付椀	40	11.5	5.5	5.0	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
47	土師質土器	高台付椀	5		(7.8)	(2.9)	角閃石・軽石	普通	にぶい黄褐色	利根川
48	土師質土器	高台付椀	5		(6.8)	(2.8)	角閃石・軽石	不良	にぶい黄褐色	利根川
49	土師質土器	高台付椀	20		6.3	(3.4)	角閃石・石英	普通	浅黄褐色	利根川
50	土師質土器	高台付椀	20		6.2	(3.0)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川